

令和6年度 山形市社会福祉事業団 事業報告書

I 事 務 局

(1) 理事会の開催

事業団定款に基づき、下記のとおり理事会を開催した。

- ① 第209回理事会（4月1日）……書面開催
（審議事項）
 - ・常務理事の選定について
- ② 第210回理事会（5月13日）……山形市役所
（報告事項）
 - ・給食調理業務の委託契約の締結について
（審議事項）
 - ・令和5年度事業報告について
 - ・令和5年度決算の承認について
 - ・令和6年度補正予算について
 - ・居宅介護支援事業所における介護予防支援の指定申請について
 - ・指定介護老人福祉施設菅沢荘運営規程の一部改正について
 - ・指定短期入所生活介護事業所（指定介護予防短期入所生活介護事業所）菅沢荘運営規程の一部改正について
 - ・指定通所介護事業所菅沢デイサービスセンター（通常型）運営規程の一部改正について
 - ・指定通所介護事業所菅沢デイサービスセンター山形市介護予防・日常生活支援総合事業における通所型サービス（従前相当）運営規程の一部改正について
 - ・指定居宅介護支援事業所すげさわ運営規程の一部改正について
 - ・指定居宅介護支援事業所たきやま運営規程の一部改正について
 - ・評議員選任・解任委員の選任について
 - ・苦情解決規程に基づく第三者委員の選任について
 - ・評議員会の招集について
- ③ 第211回理事会（7月1日）……書面開催
 - ・指定介護老人福祉施設菅沢荘運営規程の一部改正について
 - ・指定短期入所生活介護事業所（指定介護予防短期入所生活介護事業所）菅沢荘運営規程の一部改正について
- ④ 第212回理事会（10月31日）……山形市役所
（報告事項）
 - ・理事長及び常務理事の業務執行状況について
 - ・事業団の業務執行状況について
 - ・元菅沢荘入所者遺族からの損害賠償請求裁判の和解について
 - ・銅町デイサービスセンターの休止・廃止に向けた進捗状況について

(審議事項)

- 令和6年度補正予算について
- 評議員候補者の推薦について
- 評議員に書面による同意を求めることについて

⑤ 第213回理事会（3月13日）……山形市役所

(報告事項)

- 銅町デイサービスセンターの休止・廃止について
- 債権の放棄について
- 理事長及び常務理事の業務執行状況について

(審議事項)

- 令和6年度補正予算について
- 定款の一部変更について
- 役員、評議員、評議員選任・解任委員及び運営協議会委員の報酬等に関する規程の一部改正について
- 令和7年度事業計画について
- 令和7年度資金収支予算について
- 就業規則の一部改正について
- 育児休業等に関する規程の一部改正について
- 介護休業等に関する規程の一部改正について
- 契約職員就業規程の一部改正について
- こまくさ学園運営規程の一部改正について
- 指定放課後等デイサービス風の子運営規程の一部改正について
- 指定介護老人福祉施設菅沢荘運営規程の一部改正について
- 指定短期入所生活介護事業所（指定介護予防短期入所生活介護事業所）菅沢荘運営規程の一部改正について
- 指定通所介護事業所菅沢デイサービスセンター（通常型）運営規程の一部改正について
- 指定通所介護事業所菅沢デイサービスセンター山形市介護予防・日常生活支援総合事業における通所型サービス（従前相当）運営規程の一部改正について
- 山形市養護老人ホームあたご荘運営規程の一部改正について
- あたご荘外部サービス利用型特定施設運営規程の一部改正について
- あたご荘外部サービス利用型特定施設（介護予防）運営規程の一部改正について
- 指定訪問介護事業所ヘルパーステーションあたご運営規程の一部改正について
- 指定訪問介護事業所ヘルパーステーションあたご山形市介護予防・日常生活支援総合事業における訪問型サービス（従前相当）運営規程の一部改正について
- 給食調理業務の委託に係る契約方法及び指名業者の選定について
- 評議員の招集について
- 事務局長、事務局次長、施設長及び主幹の任免について

(2) 役員の異動

① 役員の改選

ア 常務理事の就任

令和6年4月1日付けで佐藤浩治事務局長が理事に就任し、同日開催の理事会（書面開催）で常務理事に選定された。

イ 副理事長及び常務理事の辞任監事（2名）

- 令和7年3月31日付けで松浦雄大理事が副理事長を辞任した。
- 令和7年3月31日付けで佐藤浩治理事が常務理事及び理事を辞任した。

(3) 評議員会の開催

事業団定款に基づき、下記のとおり評議員会を開催した。

① 第97回評議員会（5月29日）……山形市役所

（報告事項）

- 令和5年度事業報告について

（審議事項）

- 令和5年度決算の承認について
- 令和6年度補正予算について

② 第98回評議員会（11月5日）……書面開催

（審議事項）

- 令和6年度補正予算について

③ 第99回評議員会（3月26日）……山形市役所

（報告事項）

- 元菅沢荘入所者遺族からの損害賠償請求裁判の和解について
- 銅町デイサービスセンターの休止・廃止について
- 債権の放棄について

（審議事項）

- 令和6年度補正予算について
- 定款の一部変更について
- 役員、評議員、評議員選任・解任委員及び運営協議会委員の報酬等に関する規程の一部改正について
- 令和7年度事業計画について
- 令和7年度資金収支予算について

(4) 評議員の異動

① 評議員の退任

- 鈴木 靖子 令和6年5月29日付け 辞任
- 小野 徹 令和6年6月30日付け 辞任

② 評議員の就任

- 大沼真紀子 令和6年10月31日付け 就任
- 無着 道子 令和6年10月31日付け 就任

(5) 評議員選任・解任委員会の開催

- ① 第9回評議員選任・解任委員会（10月31日）……山形市役所
（審議事項）
- ・評議員の選任について

(6) 評議員選任・解任委員の異動

- ① 評議員選任・解任委員の退任
- ・浅田 秀行 令和7年3月31日付け 辞任
- ② 評議員選任・解任委員の就任
- ・浅田 秀行 令和6年5月13日付け 就任

(7) 運営協議会の開催

事業団定款に基づき、下記のとおり運営協議会を開催した。

- ① 第15回運営協議会（6月28日）……山形市役所
（協議事項）
- ・令和5年度事業報告及び決算について
- ② 第16回運営協議会（2月26日）……山形市役所
（報告事項）
- ・元菅沢荘入所者遺族からの損害賠償請求裁判の和解について
 - ・銅町デイサービスセンターの休止・廃止について
- （協議事項）
- ・令和7年度事業計画（案）について

(8) 運営協議会委員の異動

- ① 運営協議会委員の退任
- ・鈴木 章人 令和6年5月31日付け 辞任
 - ・齋藤 健二 令和6年11月1日付け 辞任
- ② 運営協議会委員の就任
- ・鈴木 伸治 令和6年6月1日付け 就任
 - ・須藤 克郎 令和6年6月1日付け 就任
 - ・沼澤 春樹 令和7年2月1日付け 就任

(9) 職員の状況について

① 職員数

区 分	令和6年4月1日 現在	年度中の増減			令和7年3月31日 現在
		採用者	退職者	増減	
正 規 職 員	138名	0名	3名	△3名	135名
契 約 職 員	61名	5名	9名	△4名	57名
パート職員	64名	4名	13名	△9名	55名
計	263名	9名	25名	△16名	247名
派 遣 職 員	14名	3名	7名	△4名	10名

※正規職員には再任用職員7名を含む。常務理事を除く。

② 職員採用試験の実施状況

事業団の要員計画に基づき、前年度からの職員の欠員補充を図るため、職員採用試験を実施した。全8回の実施計画とし、毎回応募者があり令和6年度は8回全て実施した。職員採用試験を実施した結果、下記のとおり10名の合格者を内定した。

職種名	募集人数	受験者数	合格者	採用者
指導員・保育士	1名	4名	1名	1名
介護員	8名	6名	5名	4名
事務員	1名	1名	1名	1名
保健師	1名	2名	2名	1名
看護師	1名	2名	2名	2名
介護支援専門員	1名	2名	1名	1名

※保健師の合格者1名、介護員の合格者1名が採用辞退となった。

③ 職員の採用状況

令和6年4月1日付け採用者7名（指導員・保育士3名、介護員3名、准看護師1名）

④ 再任用職員の任用

再任用職員制度に基づき、令和6年3月31日付け定年退職者1名を4月1日から再任用するとともに、再任用職員6名の任期を更新し、経験のある人材の有効な活用を図った。

⑤ 障がい者の雇用状況

まんさくの丘、菅沢荘及びあたご荘において、引き続き障がい者7名を雇用した。

⑥ 職員健康診断・ストレスチェックの実施状況

ア 職員の健康診断を例年のとおり実施した。（実施者217名）

イ 職員のストレスチェックを例年のとおり実施した。（実施者206名）

(10) 経営基本方針及び第2期経営改善指針に基づく取り組み

令和4年3月に策定した事業団の経営基本方針及び第2期経営改善指針に基づき、下記のとおり安定した福祉サービスの提供と経営の健全化に向けた取り組みを実施した。

① 経営基本方針に基づく取り組み

ア 山形市の指定管理者として指定期間4年目を迎え、引き続き市有施設の適正な管理運営と利用者への適切な福祉サービスの提供に努めた。

イ グループホームこもれびによる障がい者の短期入所及び山形市から受託した緊急入所の受入を行うとともに、あたご荘の老人一時入所事業による高齢者の受入、菅沢荘ショートステイによる積極的な措置入所者の受入を行い、福祉セーフティネットの機能を果たした。

ウ 地震等の大規模な自然災害に備え、拠点施設ごとに策定した業務継続計画（BCP）に基づき、避難訓練等を実施し、併せて計画の見直しを行った。

エ 利用者に対する虐待の発生等を未然に防止するため、策定した虐待防止の指針に基づき、虐待防止委員会の開催や人権擁護・虐待防止等に関する研修の実施等により、職員の倫理意識の向上に努めた。

オ 事業団ホームページを活用し、法人・施設の紹介、職員採用情報の掲載を行うとともに、経営状況等の情報を適切に公表し、運営の透明性の確保を図った。令和7年度中のホームページのリニューアルに向け、施設や委託業者と協議しながら必要な作業を進めた。

カ 業務の効率化、生産性の向上を図るため、昨年度に続き職員から業務改善の提案を求め、課題を把握し、可能な限り業務の改善につなげた。（経理事務の見直しによる業務の効率化、諸手当・休暇申請書等の押印廃止、ビジネスチャット導入の予算化、A I 議事録作成ツールの試行的導入）

② 第2期経営改善指針に基づく取り組み

ア 収入の確保

引き続き施設・事業ごとに稼働率又は年間利用者数等の目標値を設定し、利用者の確保に努めた。

イ デイサービスセンターの在り方の検討

- ・令和6年9月に山形市から、市内のデイサービスが供給過多の状況で民業圧迫にならないよう公的なデイサービスである銅町デイサービスセンターの休止・廃止の方針が示され、令和6年12月末までに利用者全員の新たな利用先等が確保できたことから、令和7年1月から営業を休止し、山形市の条例改正により令和7年3月31日をもって廃止された。
- ・介護人材の不足等により事業運営の継続が困難なため、令和6年4月から営業を休止していた菅沢デイサービスセンター認知症型についても、山形市の条例改正により令和7年3月31日をもって廃止された。

ウ 職員の待遇改善の実施

国の「デフレ完全脱却のための総合経済対策」に基づき、国の補助金等をもとに令和6年2月から5月まで賃金改善を実施し、特別処遇改善手当を月額4,000円～5,500円から月額5,500円～9,500円に引き上げた。（令和6年6月以降は処遇改善加算により対応）

(1) その他

① 元菅沢荘入所者遺族からの損害賠償請求裁判の和解について

元菅沢荘入所者の遺族から避難訓練の際に車椅子から転倒して頭部に怪我をし、その後死亡したのは施設側の不適切な対応が原因として、事業団に対し慰謝料等約1,200万円の損害賠償を求め、令和6年1月に山形地方裁判所に提訴があった。

事業団では、弁護士に対応を委任してきたが、裁判所から転倒と死亡との因果関係は認められないとの判断が示された上で、裁判所から和解案（入院慰謝料等の解決金183万円の支払い）が提示され、令和6年10月に遺族側と和解した。

② 光熱費等の物価高騰に係る支援給付金及び補助金の交付

前年度に続き光熱費等の物価高騰の影響により、事業運営に係る経費が増大していることから、対象事業所において山形市から山形市光熱費等支援給付金の交付を受けた。（障がい者施設：930,000円、高齢者施設：2,132,400円）

③ 消費税の納付

令和6年5月末までに令和5年度分の消費税を適正に納付した。

④ 情報公開・個人情報保護制度の運用状況

- ・情報公開請求 0件
- ・個人情報開示請求 0件

※菅沢荘元入所者遺族から元入所者の介護・看護記録、私物管理記録及び入出金記録の開示請求があったため、全部開示した。(故人の記録ため個人情報に該当しない。)

⑤ 苦情解決制度の運用状況

ア 苦情解決第三者委員会の開催(7月19日)……山形学園

令和5年度の苦情件数、利用満足度調査の結果及び令和6年度の苦情解決体制等を報告した。なお、第三者委員による担当施設の訪問は、感染症防止のため開催を見送った。

イ 第三者委員の異動

任期満了による改選に伴い、下記の者3名が選任された。

- ・無着 道子 令和6年6月1日付け 重任
- ・三森 聡 令和6年6月1日付け 重任
- ・奥山 信昭 令和6年6月1日付け 重任

Ⅱ 土地・建物の状況

指定管理者として管理運営する施設の土地・建物の状況は、下記のとおりである。

名 称	所 在	土 地	建 物
まんさくの丘	蔵王半郷	19,174.52㎡	2,757.24㎡
児童養護施設山形学園	蔵王上野	21,687.39㎡	1,702.69㎡
高齢者総合福祉施設すげさわ	すげさわの丘	30,138.08㎡	5,123.49㎡
養護老人ホームあたご荘	大字岩波	12,779.48㎡	4,177.95㎡
銅町デイサービスセンター	銅町二丁目	1,713.03㎡	813.63㎡

Ⅲ まんさくの丘

こまくさ学園、恵光園及び蔵王通勤寮の3施設を中心に、それぞれの事業の特性を活かしながら、総合福祉施設として社会的な役割を果せるよう、常に連携を図りながら事業の運営を行った。

(1) 施設全体としての取り組み

① 各施設との連携の推進

ア まんさくの丘調整会議を毎月2回開催し、それぞれの施設や事業との連携と調整を図り、効果的かつ効率的な運営に努めた。

イ 職員による各種委員会を組織し、それぞれの活動を通して、利用者への福祉サービスの向上と施設運営の改善と活性化を図った。(研修委員会、給食委員会、地域福祉委員会、防災委員会、環境整備委員会、衛生委員会、虐待防止委員会 等)

② 安全管理に関する取り組み

ア 火災や自然災害に備えて、総合防災訓練を年2回、避難訓練を毎月実施した。

イ 施設内外の事故防止を図るため、安全点検を行い必要に応じて対策を講じた。

ウ 感染症を予防するため、施設全体で連携しながら徹底した取り組みを行った。

エ 衛生委員会を毎月開催し、職場の安全衛生の推進を図った。

オ 大規模な災害等に備え、業務継続計画の策定に向けて検討を進めた。

③ 地域社会との交流

「まんさくの丘まつり」を開催し、多くの来場者で賑わい、地域の方々との交流を図ることができた。また、「蔵王地区まつり」への参加、「地域福祉懇談会」と健康講座の開催など、地域社会との交流を図ることができた。

④ 虐待防止及び身体拘束の適正化の推進

まんさくの丘の虐待防止委員会による権利擁護・虐待防止に関する研修を実施し、職員全体の倫理意識を高めた。

1 こまくさ学園（児童発達支援センター）

幼児期に必要な基本的なソーシャルスキルを一人ひとりが可能な限り獲得できるよう支援に努めた。利用状況については、令和6年3月に14名の利用児が卒園し、4月には7名の児童が入園したが、年度当初は定員に達しない23名からのスタートとなった。年度末の在籍者数は31名、利用率は前年度比0.2%増の80.9%であった。7月～8月にかけて風邪や手足口病等で体調を崩し欠席する園児がいたこと等も影響し、目標値の84%を下回った。

また、地域療育の拠点としてその役割を果たすため、相談支援の充実を図りながら、保育所や山形市保健所等への支援を実施し、地域療育の向上に努めた。

① 利用状況

事業所名		こまくさ学園											利用定員		30名	
事業種別		児童発達支援センター											目標値		平均利用率84%	
項 目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均	
本 年 度	開 園 日 数	23	22	23	24	24	21	24	23	22	21	20	23	270日	－	
	利用登録児数(人)	23	24	25	26	26	26	26	26	26	26	29	31	314人	26.2人	
	延利用児数(人)	443	467	477	511	437	450	518	490	467	463	475	514	5,712人	476.0人	
	1日平均利用(人)	19.3	21.2	20.7	21.3	18.2	21.4	21.6	21.3	21.2	22.0	23.8	22.3	－	21.2人	
	利 用 率(%)	83.7	88.4	83.0	81.9	70.0	82.4	83.0	81.9	81.6	84.8	81.9	72.1	－	80.9%	
前 年 度	利用登録児数(人)	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	360人	30.0人	
	延利用児数(人)	544	550	636	505	557	567	596	472	563	530	527	489	6,536人	544.7人	
	利 用 率(%)	82.4	83.3	88.3	73.2	77.4	82.2	86.4	71.5	85.3	84.1	83.7	70.9	－	80.7%	

② 年齢構成 (令和7年3月31日現在)

在籍者	0～2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	平均年齢
31人	0人	4人	3人	13人	11人	5.6歳

③ 障がい程度状況 (令和7年3月31日現在)

在籍者	最重度	重 度	中 度	軽 度
31人	0人	7人	11人	13人

④ 通園バスの運行状況 (令和7年3月31日現在)

区 分	定 員	利 用 者	乗降地点	走行キロ数(1日平均は平均運行距離)	
				年 間	1日平均
2号車	21人補8人	15人	7ヶ所	16,543 k m	61.2 k m

⑤ 療育支援

ア 療育全般

遊びや運動を通して、信頼関係を築き、子どもの心の動きを理解するよう努め、気持ちを尊重しながら、社会性や言語の獲得、基礎体力づくり、基本的な対人関係の確立など幼児期の発達に必要な療育を行った。

イ 生活習慣の自立

衣服の着脱・食事・排泄など生活習慣の自立に向けた療育を行った。

ウ ケースカンファレンス

公認心理師・臨床心理士を招いてのケースカンファレンスを13回、40件実施した。児童一人ひとりの発達課題や関わりについて職員が理解を深め、支援の質の向上に努めた。

⑥ 健康衛生管理

毎月身体測定(身長・体重)を実施するとともに、専門医による各科健診(内科、眼科、耳鼻科、歯科)を年2回実施し、児童の健康管理に努めた。また、歯科衛生士による歯磨き指導やフッ素塗布を実施した。

毎日の感染予防対策として、検温、うがい、手洗い、手指消毒、マスクの着用、換気、室内の消毒、加湿器や空間除菌脱臭機の設置等を行った。

⑦ 交流保育

近隣のこども園との交流保育を通して、互いの心の交流や生活体験の促進に努めた。

⑧ クラス別活動

毎月の活動計画に基づき、クラス毎に小集団での課題活動を行った。

⑨ 行 事

季節に応じた催しにより自然や季節を感じ、様々な社会体験により適応力や協調性を養うため、次の行事を実施した。

月	行 事 内 容
4 月	入園式、お花見
5 月	乗馬体験、ドッグセラピー
6 月	プール開き、社会見学（園外活動）
7 月	七夕、バスハイク
8 月	夏まつり
9 月	遠足、まんさくの丘まつり
10月	親子レクリエーション、乗馬体験、ドッグセラピー
11月	給食センター見学、交通安全教室
12月	クリスマス会
1 月	だんご木刺し
2 月	節分あそび
3 月	おひなまつり、卒園式

⑩ 給 食

給食委員会を毎月実施し、献立内容と食事摂取状況などを把握するとともに、年間計画に基づき季節感や変化のある給食の実施に努めた。

⑪ 保護者支援

保護者と関わる中で悩みや問題を少しでも解決できるよう、日々の療育相談、連絡帳の活用のほか、以下の支援を行った。

- ・家庭訪問（9件）
- ・個人面談（各保護者年3回）
- ・研修会（年7回）
- ・自由参観（年3回）
- ・療育参観（各クラス年2回）
- ・療育説明会（年1回）
- ・保護者茶話会（年3回）
- ・保護者懇親会（年1回）

⑫ 就 学

保護者の意向や子どもの発達段階に応じて、教育委員会、小学校、特別支援学校などの関係機関と密接に連絡を取りながら就学に向けた指導・支援を行った。

区分	名 称	人数	名 称	人数
就学	山形県立村山特別支援学校本校	1人	山形市立滝山小学校	1人
	山形県立村山特別支援学校山形校	1人	山形市立桜田小学校	1人
	山形市立第八小学校	1人	山形市立南沼原小学校	1人
	山形市立西小学校	1人	上山市立宮川小学校	1人
	山形市立東小学校	1人		
	山形市立金井小学校	2人	合 計	11人

⑬ 卒園児支援

学校からの要請を受け、定期的に学校に出向き情報交換や支援を行った。

⑭ 災害防止

非常災害に備え、避難訓練10回、総合防災訓練2回、職員の救命救急訓練を実施した。
また、園内活動や園外行事等は、無理のない内容・日程に配慮し計画を立て実施した。

⑮ 苦情解決

- 苦情件数は1件であった。
- 保護者にアンケート調査を実施し、利用満足度において「非常に良い」「良い」が全体の86.4%という結果であった。また、国のガイドラインに従い、引き続き保護者の「児童発達支援評価表」と事業所の「自己評価結果」をホームページに掲載した。

⑯ 職員研修

ア 職場内研修

- 日時 令和6年4月1日（月）
内容 「通園バスにおける見落としの防止について」（内部研修）
講師 業務調整主査 伊藤 亮
- 日時 令和6年4月6日（土）
内容 「こまくさ学園の療育内容について」（内部研修）
講師 業務調整主査 伊藤 亮
- 日時 令和6年7月17日（水）（乳幼児救急法講習）、8月7日（水）（成人救急法講習）
内容 「救命救急の講習」
講師 日本赤十字社山形県支部 指導員
- 日時 令和7年3月28日（金）
内容 「障がいのある人の権利擁護・虐待防止について」（虐待防止委員会研修）
講師 蔵王通勤寮 副寮長 高橋 智彦
- その他 4件

イ 職場外研修（※はオンライン研修）

- 山形県発達障がい者支援センター研修会 ※ 6月4日 2名
- 全国知的障害関係施設長等会議・研修 ※ 8月9日 1名
- 山形県強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）
8月1日～2日、8月27日～28日 9月5日～6日 3名
- 山形県障がい者相談支援従事者研修（基礎研修） 9月25日～26日 1名
- 山形県児童発達支援管理責任者研修（基礎研修） 10月1日、11月13日～14日 1名
- 支援力向上研修 6月20日、9月20日、11月26日、2月13日 1名
- 山形県障がい者虐待防止・権利擁護研修 2月5日 1名
- その他 6件

※強度行動障害支援者養成研修（基礎・実践・フォローアップ）の講師として職員が参加した。

⑰ 実習生等の受け入れ

- ・保育実習 4名 ・ソーシャルワーク実習 1名
- ・地域で暮らす人を理解する実習Ⅰ 5名 ・介護等体験実習 4名
- ・発達障がい作業療法実習 17名 ・心理実習 23名

⑱ 研修事業

下記のとおり「ナイトセミナー」公開講座を2回開催した。

対象者：保育所・幼稚園・放課後児童クラブ・療育機関・行政機関等の関係者

第1回 令和7年1月22日（水） 18：30～20：00

テーマ：「こどものこころの発達を理解する」

講 師：山形県立こども医療療育センター 所長 伊東 愛子 氏

受講者：109名

第2回 令和7年2月27日（木） 18：30～20：00

テーマ：「小学校低学年ごろに焦点をあてた子どもの発達についての話題提供」

講 師：公認心理師・臨床心理士 加藤 玲子 氏

受講者：96名

⑲ 相談支援

ア 巡回相談（山形市保健所）

幼児発達相談（年15回）

イ 外来相談

臨床心理士による行動観察、助言・相談を行った。（年28回 延べ48件）

ウ 相談室（年10回 延べ19件）

2 指定児童発達支援事業 ひよこ教室

発達に心配のある幼児を持つ保護者のニーズに応えるため、親子での通園による小集団療育のほか、単独での療育コースを定期的実施し、発達段階に応じたきめ細やかな療育を行った。また、公認心理師による相談時間を増やし、家族支援、母親支援の充実を図った。

延利用児数は847人で目標値の1,100人を下回った。県内で新型コロナウイルスのほか手足口病等の感染症の流行が続く中で、保育所等と並行利用している利用児については、長期欠席になることが多かった。また、年度途中にこまぐさ学園への入園希望があり、移行した児童が複数名いたことも影響した。

① 利用状況

事業所名		ひよこ教室										利用定員		10名／日	
事業種別		児童発達支援										目標値		年間利用者数1,100人	
項 目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
本年度	開 園 日 数	16	22	21	24	21	20	23	22	21	20	20	18	248日	－
	延 利 用 児 数(人)	37	62	64	88	67	68	86	89	63	88	66	69	847人	70.6人
	1日平均利用(人)	2.3	2.8	3.0	3.7	3.2	3.4	3.7	4.0	3.0	4.4	3.3	3.8	－	3.4人
前年度	延 利 用 児 数(人)	52	76	70	78	84	74	98	113	90	106	116	93	1,050人	87.5人
	1日平均利用(人)	3.5	3.6	3.0	3.5	4.0	3.5	4.5	5.1	4.5	5.9	5.5	6.2	－	4.4人

② 療育内容

- ・親子遊び、個別療育及び小集団療育を通じて、乳幼児の発達段階に必要な設定遊びや行事を実施した。
- ・〈設定療育〉ひよこ体操、ハイハイ運動、はしごくぐり、散歩、ひも通し、シール貼り、紙遊び、洗濯ばさみ遊び等
- ・公認心理師・臨床心理士による外来相談、ひよこカフェを実施した。
- ・保護者への相談支援を必要に応じて随時実施した。

3 指定放課後等デイサービス 風の子

小学生を対象に放課後や夏休み等の長期休暇中に療育や余暇の機会を提供し、心身両面のバランスのとれた発達を援助した。利用にあたっては、引き続き家庭や学校等と連携しながら感染症対策を徹底し、感染防止に努めた。

利用状況については、延利用児数は2,166人で目標値の2,200人をわずかに下回った。

① 利用状況

事業所名		風の子											利用定員		10名／日	
事業種別		放課後等デイサービス											目標値		年間利用者数2,200名	
項 目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均	
本年度	開 園 日 数	19	21	20	22	19	19	21	20	19	19	19	17	235日	－	
	延 利 用 児 数(人)	167	212	186	207	155	181	214	191	172	173	165	143	2,166人	180.5人	
	1日平均利用(人)	8.8	10.1	9.3	9.4	8.2	9.5	10.2	9.6	9.1	9.1	8.7	8.4	－	9.2人	
前年度	延 利 用 児 数(人)	166	179	192	176	174	178	196	156	162	173	167	144	2,063人	171.9人	
	1日平均利用(人)	8.7	9.0	9.1	8.8	8.7	9.4	9.3	7.8	8.5	9.1	8.8	8.5	－	8.8人	

② 療育内容

- ・放課後や長期休暇中の療育の場として、幼児期に積み残した社会性、コミュニケーション及び自主性の成長を支援した。
- ・〈設定療育〉全身運動（サーキット・バランスボール等）、日常生活訓練、指先運動、クッキング、散歩、宿題等
- ・保護者への相談支援を必要に応じて随時実施した。
- ・随時学校や関係療育機関との連携を図った。

4 保育所等発達相談事業（山形市委託事業）

市内保育所等50カ所（民間立保育所31カ所、認定こども園19カ所）の保育士を対象に80回の巡回相談を実施し、発達に心配がある児童の支援方法の指導・助言を行い、保育所における発達支援技術の向上及び支援体制の充実に努めた。

① 相談事業

事業所名		保育所等発達相談事業											利用定員	－名	
事業種別		山形市委託事業											目標値	延巡回数80回	
項 目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
巡回相談	延 巡 数 (回)	0	2	7	15	12	4	4	8	9	9	9	1	80回	6.7回
	延 対 応 数 (件)	0	8	23	51	44	12	13	25	33	30	24	4	267件	22.3件
	前 年 度	0	4	28	42	39	35	19	40	33	20	18	0	278件	23.2件
フォローアップ後の件数	相 談 室 (件)	1	1	0	2	2	2	0	2	2	2	2	2	18件	1.5件
	外 来 相 談 (件)	0	0	0	3	5	6	7	5	3	2	5	9	45件	3.8件
	計	1	1	0	5	7	8	7	7	5	4	7	11	63件	5.3件
	前 年 度	2	1	2	2	5	7	7	6	5	8	10	6	61件	5.1件

② 研修事業

ア 発達支援基礎養成研修会（年3回）

下記の研修会を開催した。

第1回 令和7年2月3日（月） 14：00～17：00 テーマ：「発達障がい理解と支援」 講 師：山形県立こども医療療育センター 所長 伊東 愛子 氏 受講者：47名（公立保育園、民間立認可保育園、幼稚園、認定こども園）
第2回 令和7年2月13日（木） 14：00～17：00 テーマ：「子どもの行動の背景から対応を考える」 講 師：山形県立保健医療大学保健医療学部作業療法学科 准教授 森 直樹 氏 受講者：45名（公立保育園、民間立認可保育園、幼稚園、認定こども園）
第3回 令和7年2月19日（水） 14：00～17：00 テーマ：「支援を必要とする子の基本的理解に向けて」 講 師：公認心理師・臨床心理士 加藤 玲子 氏 受講者：45名（公立保育園、民間立認可保育園、幼稚園、認定こども園）

イ 令和5年度事例検討会

区 分	箇 所 数	延巡回数	延対応件数
民間立保育所	0	0	0

※巡回相談を希望する園が多かったため、巡回相談日として対応した。

ウ 保育所発達相談事業連絡会

令和6年4月22日に各保育所の代表者を対象に発達相談事業の説明会を開催した。

③ 発達支援（巡回相談）連絡会

関係各課（こども未来課、学校教育課等）との連絡会は実施できなかった。

5 恵光園（生活介護事業）

利用者の希望や個性を尊重し、主体的に活動に取り組める環境づくりと支援サービス、社会体験の充実に努めた。家庭等との連携により利用者の心身の安定を図りながら支援にあたった。

平均利用率は79.2%で前年度より微増となったが目標の82%を下回った。感染症の集団感染はなかったが、高齢化した利用者又は家族が体調を崩して登園できないことが多く見られた。事業に関しては、感染症の防止に配慮しながら、個別的なグループ外出、日常活動への保護者参観、キッチンカーによる飲食体験の提供等、魅力的な行事を企画・開催した。

① 利用状況

事業所名		恵光園										利用定員		40名	
事業種別		障害福祉サービス（生活介護）										目標値		平均利用率82%	
項 目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
本年度	開 園 日 数	23	22	23	24	24	21	24	23	22	21	20	23	270日	－
	利用登録者数(人)	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	468人	39.0人
	延利用者数(人)	675	728	718	779	674	673	763	678	669	642	620	720	8,339人	694.9人
	1日平均利用(人)	29.3	33.1	31.2	32.5	28.1	32.0	31.8	29.5	30.4	30.6	31.0	31.3	－	30.9人
	利 用 率(%)	75.3	84.8	80.0	83.2	72.0	82.2	81.5	75.6	78.0	78.4	79.5	80.3	－	79.2%
前年度	利用登録者数(人)	42	42	42	42	41	41	40	40	40	40	39	39	488人	40.7人
	延利用者数(人)	745	724	767	718	624	701	727	704	702	661	608	699	8,380人	698.3人
	利 用 率(%)	80.6	78.4	76.1	74.3	63.4	74.3	79.0	80.0	79.8	78.7	74.2	77.9	－	76.3%

② 年齢別構成 (令和7年3月31日現在)

在籍者	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	平均年齢
39人	0人	9人	7人	5人	11人	6人	1人	44.1歳

③ 障がい支援区分 (令和7年3月31日現在)

在籍者	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
39人	0人	0人	2人	12人	12人	13人

④ 通園バス運行状況 (令和7年3月31日現在)

区 分	定 員	利 用 者	乗降地点	走行キロ数(1日平均は平均運行距離)	
				年 間	1日平均
1号車	33人補9人	17人	7カ所	16,119km	59.7km
3号車	8人	7人	7カ所	16,655km	61.7km
4号車	6人	6人	5カ所	15,007km	55.6km

⑤ 日常活動

日々の生活で必要となる基本的な生活能力及び体力と基本的な生活習慣を養うため、個別支援計画等に基づき、継続的な活動、支援を行った。

⑥ 班別活動

利用者の希望や適性等を尊重し、通常は作業班と生活班の2つのグループに分かれてそれぞれ以下の活動に取り組んだ。

	項目	主 な 活 動 内 容	
作 業 班	作 業 活 動	作業トレーニングとして菓子箱（紙箱）折りの作業を行った。	
	創 作 活 動	陶芸	利用者の適性に合わせ、ひも作り、型作りなど様々な技法を用いて作品の制作に携われるように配慮した。釉薬の塗布、ガス窯で焼成し、個性的な作品作りを行った。完成した作品は施設内で展示販売を行った。
		手工芸	・利用者の能力に合わせて取り組める手工芸を取り入れて行った。 ・ビーズ等で指輪、プレスレッド、ネックレス等を制作し、施設の祭りで展示販売を行った。
		図画工作	季節や行事に合わせて描画や展示物の制作等を行い、自由に創作する楽しさ、達成感を味わった。
	生 活 学 習 レ ク リ エ ー シ ョ ン	クッキング	季節感のあるお菓子や飲み物等を作った。また、誕生会で食べるお菓子を生活班と一緒に手づくりし、誕生月ごとに利用者をお祝いした。
		月・季節行事	誕生会や茶話会、季節の小行事等を実施して、変化のある生活作りに取り組んだ。
		園外活動	感染対策を講じた上で、作業班のみや生活班と混成の小グループで外出し、散策や社会体験を行った。
		園芸	園の畑ににんにく・かぼちゃ・落花生等を植え、収穫した野菜を調理して収穫祭を行い、自分たちで育て、収穫する喜びを体験した。
		軽スポーツ	・散歩やダンス等楽しく体を動かせる場面を多く取り入れた。 ・地域のインディアカ愛好会との交流会は中断しているが、蔵王コミュニティセンターホールを借用して軽運動を楽しんだ。
生 活 班	個 別 活 動	・利用者一人ひとりの障がいの状態、嗜好や適性に合わせ、楽しく取り組める軽作業や指先を使うビーズ通しやパズル作り等の活動を行った。 ・施設周辺の散歩等により、体力作りや健康増進に努めた。	
	体操・ダンス	音楽、レクリエーション、運動等を組み合わせて、楽しみながら体を動かし、身体機能の活性化を図った。	
	機 能 訓 練	身体機能の維持・向上を図るため、個人ごとに必要な訓練を行った。	
	創 作 活 動	陶芸	利用者の適性に合わせ、型作り等の技法を用いて作品を作り、完成した作品は施設の祭りで販売し、販売を体験した。
		手工芸	・ビーズ手芸に取り組み、ネックレスやプレスレッド等の作品を作った。 ・パーラービーズでコースター等の作品を作り、施設の祭りで展示販売を行った。
	生 活 学 習 レ ク リ エ ー シ ョ ン	月・季節行事	・誕生会や茶話会、季節の小行事を実施し、季節感のある生活作りに取り組んだ。 ・園の畑にサツマイモ、かぼちゃ、にんにく等を植え、植物の生育や収穫の喜びを体験するとともに、採れた野菜で収穫祭を行った。
		園外活動	感染対策を講じた上で、生活班のみや作業班と混成の小グループで外出し、散策、買い物、レストランでの食事等の社会体験を行った。
		クッキング	誕生会で食べるお菓子を作業班と一緒に手づくりし、誕生月ごとに利用者をお祝いした。また、季節に応じた菓子を生活班単独でも作った。
		軽スポーツ	・散歩やダンス等楽しく体を動かせる場面を多く取り入れた。 ・地域のインディアカ愛好会との交流会は中断しているが、蔵王コミュニティセンターホールを借用して軽運動を楽しんだ。
		レクリエーション	室内でできる簡単なボウリングやサッカー等のゲームを行い、楽しく体を動かした。

⑦ 全体活動

- ・花見や年末慰労会等の行事を園全体及び保護者を交えて行い、親睦と相互理解を深めた。
- ・アイスクリームを提供するキッチンカーを園に呼び、楽しく飲食する機会を提供した。
- ・家庭から廃棄するペットボトルの提供を受け、リサイクル活動を行った。

⑧ 園外活動

- ・社会参加を目的として小グループで施設外に出かけ、楽しみつつ自己選択・自己決定で
きる機会を提供した。
- ・山形県障がい者販売体験研修事業に参加し、県施設で作品の販売を行った。

⑨ 健康衛生管理

- ・嘱託医との連携を図りながら、利用者の健康管理に努めるとともに、専門医による各科
検診（内科、眼科、耳鼻科、歯科）を年2回実施した。
- ・利用者全員を対象に施設内で山形市の総合健診（特定健診・がん検診等）と同様の集団
健診を実施した。
- ・看護職員及び担当職員を中心に丁寧な健康観察を行い、指浴等による清潔の保持、体調
不良や健康状態の把握、疾病やケガの予防に努めた。また、必要に応じて医療機関への
受診に同行し、既往症の把握、医療機関や家庭との連携に努めた。
- ・毎月1回体重・血圧測定を行い、利用者の健康状態の管理に努めた。

⑩ 給食の状況

- ・利用者に好まれる給食の内容と栄養のバランスの両立に努め、季節感のある献立や利用
者が選択できる希望献立等により、豊かな食事の提供に努めた。また、変化する利用者
の咀嚼、嚥下の状態に合わせた形態（普通食、粗みじん、刻み、ペースト等）で提供した。
- ・給食委員会を毎月1回開催し、献立内容と利用者の食事摂取状況等を確認することで提
供内容の充実を図った。
- ・偏食、肥満、糖尿病等の成人病予防を考慮した食事の提供を行い、必要に応じて家庭と
の連携を図った。

⑪ 時間外預かり支援（レスパイト）サービスの実施

利用者及びその家庭に対する支援として、通常の営業時間を延長して支援を行った。

○午前の預かり時間（8：00～8：30） 延べ利用者数 143人

○平日・午後の預かり時間（17：15～18：30） 延べ利用者数 110人

○土曜・午後の預かり時間（12：30～18：30） 延べ利用者数 97人

⑫ 防災及び事故防止対策

- ・総合防災訓練（年2回）と火災や地震を想定した避難訓練（月1回）を実施して災害時
に備えた。訓練は無理のない内容・日程で安全性に配慮し計画を立て実施した。
- ・登降園時の安全に配慮し、家庭と連携を密にしながら事故の防止に努めた。

⑬ 苦情解決

- ・モニタリング等の面談で利用者、家族、関係機関と関係を築き、日々の連絡を重ねたこ
とで特に苦情はなかった。
- ・利用者満足度アンケートを年2回実施し、「とても満足している」「まあ満足している」

との回答が1回目94%、2回目は95%と良好な評価が得られた。

⑭ 職員研修

職員の資質向上を図るため、以下の研修に参加した。

ア 職場内研修

・救命救急法研修（乳幼児）	7月17日	3名
・救命救急法研修（成人）	8月7日	5名
・感染症対策委員会研修	8月21日、11月27日	12名
・虐待防止委員会研修	3月17日	5名

イ 職場外研修（※はオンライン研修）

・山形県強度行動障がい支援者養成研修（基礎研修）※	8月1日～2日	1名
・山形県知的障害者福祉協会権利擁護推進委員研修	10月11日	1名
・山形県知的障害者福祉協会支援スタッフ部会意志決定支援研修会	10月24日	1名
・山形県知的障害者福祉協会種別部会研修	1月15日	1名
・山形県チームマネジメント研修	1月17日	1名
・山形県知的障害者福祉協会権利擁護セミナー※	3月13日	1名
・その他 4件		4名

⑮ 地域社会との交流

- ・村山総合支庁、村山保健所での収穫物・作品の展示販売（年8回）

⑯ 保護者との連携

- ・毎日の連絡帳により情報交換と相互理解を深め、必要に応じて電話や家庭訪問等により連携を密にし、施設と家庭が一体的かつ継続的に支援ができるように努めた。
- ・まんさく丘内での展示販売（12月の年末慰労会で実施）

⑰ 実習生等の受け入れ

- ・現場実習（特別支援学校生を対象） 3名
- ・施設実習（保育士、看護師養成学科） 12名

6 日中短期入所事業所 恵光園

在宅で生活する障がい者が、家族等からの見守りを受けることができない場合に、日中の一定時間にお預かりすることにより、本人及び家族の負担軽減を図った。

年間延べ利用者数は179人で目標の100名を大きく上回った。他事業所を利用している新規の重症心身障がい者の利用が増えたことが要因であった。

① 利用状況

事業所名		日中短期入所事業所恵光園										利用定員		5名／日	
事業種別		地域生活支援事業（日中一時支援事業）										目標値		年間延利用者数100名	
項 目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延利用者数	4時間未満(人)	9	11	16	13	14	15	17	11	6	11	11	15	149人	12.4人
	4～8時間(人)	1	1	1	2	4	1	3	3	2	1	3	5	27人	2.3人
	8時間以上(人)	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	3人	0.3人
	計	10	12	17	15	18	16	20	14	9	12	14	22	179人	14.9人
	前 年 度	9	10	8	4	5	8	6	2	4	6	3	3	68人	5.7人

7 指定共同生活援助事業所 こもれび

手厚い支援が必要な入居者が安定した日常生活を営むことができるよう個別支援計画に基づき、食事、入浴、排せつ介助等の生活全般の支援を提供した。

入居者の入退所はなく、稼働率は前年度の82.8%から85.1%に増加し、目標の85%を達成することができた。今後も安心して生活できる環境と日中活動の充実に努め、稼働率のアップを目指す。

① 利用状況

事業所名		共同生活援助事業所こもれび											入居定員		10名／日	
事業種別		障害福祉サービス（日中サービス支援型共同生活援助）											目標値		稼働率85%	
項 目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均	
本 年 度	入 居 者 数(人)	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	120人	10.0人	
	充 足 率(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	－	100.0%	
	営 業 日 数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365日	－	
	延入居者数(人)	221	270	263	276	260	255	272	254	259	248	251	276	3,105人	258.8人	
	1日平均利用(人)	7.4	8.7	8.8	8.9	8.4	8.5	8.8	8.5	8.4	8.0	9.0	8.9	－	8.5人	
	稼 働 率(%)	73.7	87.1	87.7	89.0	83.9	85.0	87.7	84.7	83.5	80.0	89.6	89.0	－	85.1%	
前 年 度	入 居 者 数(人)	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	120人	10.0人	
	充 足 率(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	－	100.0%	
	延入居者数(人)	252	257	256	264	225	259	270	262	261	250	206	270	3,032人	252.7人	
	稼 働 率(%)	84.0	82.9	85.3	85.2	72.6	86.3	87.1	87.3	84.2	80.6	71.0	87.1	－	82.8%	

② 入居の状況 (令和7年3月31日現在)

入居定員	男	女	入居者数
10人	4人	6人	10人

③ 年齢構成 (令和7年3月31日現在)

年 齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計	平均年齢
人 数	0人	0人	0人	3人	5人	2人	0人	10人	51.9歳

④ 入居者の日中活動先 (令和7年3月31日現在)

活動場所	生活介護 (恵光園)	生活介護 (恵光園以外)	就労継続支援B型	地域生活支援事業 (生活訓練)	無し	合 計
人 数	8人	0人	1人	0人	1人	10人

⑤ 入居者への支援

入居者の心身の状態や障がいの状況に応じた個別支援計画を作成し、職員が情報を共有しながら必要な支援を行った。

⑥ 食事の提供

食事はまんさくの丘厨房で調理し、グループホームに運搬して提供する体制であるため、まんさくの丘栄養士と連携し、入居者の食事状況、健康状態に応じて提供した。

⑦ 健康及び衛生管理

- 毎日の健康観察や服薬の管理を実施し、入居者の健康管理に努めた。また、必要に応じて医療機関を受診し、医師等の指示に従い必要な支援を行った。
- 新型コロナウイルス等の感染症については、消毒、手洗い等の感染防止対策の徹底、検

査キットの活用による早期発見に努めた。

⑧ 関係機関との連携

日中活動の場となる他事業所や相談支援事業所等と連携し、情報交換、担当者会議を行い、入居者の生活や日中活動の安定を図った。

⑨ 家庭との連携

必要に応じて電話や自宅に帰省する際に必要な情報の共有や意見の交換等を行い、家庭と連携しながら入居者への支援の向上に努めた。

⑩ 防災及び事故防止対策

総合訓練（2回）及び夜間を想定した避難訓練（1回）を実施するとともに、消火器・スプリンクラー等の防災設備の確認を行い、非常時の体制の維持に努めた。

⑪ 苦情解決

寄せられた意見・要望等については、できる限り対応した。

⑫ 職員研修

各種研修会に参加し、職員の資質向上を図るとともに、まんさくの丘で開催された虐待防止委員会研修に参加し、障がい者の権利擁護・虐待防止等について職員の意識を高めた。

8 指定短期入所事業所こもれば

グループホームこもればに併設された短期入所1名分については、4月にグループホーム入居者が新型コロナウイルスに感染したため、受け入れを一時中止したものの、年間延べ利用者数は564人で前年度の491人から73人増加した。今後も登録者は増加する見通しである。

緊急入所用1名分（山形市障がい者地域生活支援拠点等整備事業業務受託分）については、山形市に居住・登録した障がい者の方を対象に、緊急入所又は体験的利用に供したが、年間延べ利用者数は32人であった。

① 利用状況

事業所名		短期入所事業所こもれば									利用定員		短期入所1名、緊急入所1名			
事業種別		障害福祉サービス（短期入所）									目標値		年間利用者数360人（緊急入所除く）			
項 目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均	
短期入所	延利用者数(人)	30	46	52	46	53	50	51	48	48	48	48	44	564人	47.0人	
	前 年 度	42	45	42	45	28	47	46	42	46	37	25	46	491人	40.9人	
緊急入所	延利用者数(人)	1	6	2	8	9	0	0	2	0	0	0	4	32人	2.7人	
	前 年 度	0	0	5	0	0	22	29	20	0	0	0	8	84人	7.0人	

9 蔵王通勤寮（宿泊型自立訓練事業）

利用者の就労・生活の安定と地域生活への移行を推進するため、就労事業所、関係機関等と連携を図りながら、個別支援計画に基づき支援を行った。

延利用者数は、前年度比153名増となったものの、稼働率は67.9%で目標値の80%を下回った。利用者数は3名増、3名減で増加とならなかったことに加え、グループホームに約50日間の長期の体験入居を行った利用者がいたことなどが要因であった。

① 利用状況

事業所名		蔵王通動寮										利用定員		20名	
事業種別		障害福祉サービス（宿泊型自立訓練）										目標値		平均稼働率80%	
項 目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
本 年 度	営 業 日 数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365日	－
	延利用者数(人)	411	387	405	449	413	412	407	417	429	422	368	434	4,954人	412.8人
	1日平均利用(人)	13.7	12.5	13.5	14.5	13.3	13.7	13.1	13.9	13.8	13.6	13.1	14.0	－	13.6人
	稼 働 率(%)	68.5	62.4	67.5	72.4	66.6	68.7	65.6	69.5	69.2	68.1	65.7	70.0	－	67.9%
前 年 度	延利用者数(人)	390	396	390	417	422	395	403	390	399	395	384	420	4,801人	400.1人
	1日平均利用(人)	13.0	12.8	13.0	13.5	13.6	13.2	13.0	13.0	12.9	12.7	13.2	13.5	－	13.1人
	稼 働 率(%)	65.0	63.9	65.0	67.3	68.1	65.8	65.0	65.0	64.4	63.7	66.2	67.7	－	65.6%

② 入退所の状況 (令和7年3月31日現在)

令 和 5 年 度 末 在 籍 者	年 度 中 の 増 減			令 和 6 年 度 末 在 籍 者
	入 所	退 所	増 減	
14人	3人	3人	0人	14人（男11人女3人）

③ 年齢構成 (令和7年3月31日現在)

年 齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計	平均年齢
人 数	1人	5人	0人	4人	2人	2人	14人	40.9歳

④ 利用者の日中活動区分 (令和7年3月31日現在)

就労形態	一般就労	就労継続支援A型	就労継続支援B型	就労移行支援	生活介護	合 計
人 数	6人	2人	5人	1人	0人	14人

⑤ 自立能力向上への支援

- ・ 基本的生活習慣、身辺処理能力及び金銭管理能力の向上を図る支援を行った。
- ・ 自治会活動の充実を図るための支援（年間計画、生活用品購入、当番活動等）を行った。
- ・ 自己破産手続き、借金返済、未払い金の取りまとめとその支払い等の支援を行った。
- ・ インターネット上での人間関係に関する問題の解決の支援を行った。

⑥ 就業指導及び職場定着への支援

- ・ 就労事業所及び就労移行支援事業所、関係機関との連携を強化し、職場定着を目指した訪問等を行った。

⑦ 食生活への支援

- ・ 給食委員会を毎月1回実施し、献立内容と利用者の食事摂取状況を把握するとともに、年間計画に基づき季節感のある給食の提供を行った。
- ・ 利用者の嗜好に関する調査を毎月行い、希望を集約して実際の献立に反映させた。
- ・ 定期的に栄養士が食事の実態を確認し、必要に応じて食事指導及び助言を行った。
- ・ 食生活及び調理に関する知識と技能を高める支援を行った。

⑧ 余暇活動への支援

感染症対策を講じて余暇活動や行事を実施し、外食（不定期）、余暇活動（不定期）、社会見学旅行（10月）、クリスマス会（12月）を開催し、できる限り生活の質の向上を図った。

⑨ 健康及び衛生管理

・健康診断等の実施状況

検診内容	健康診断（一般）	健康診断（成人病）	子宮・乳がん検診
受診者数	13人	8人	1人

・健康診断の結果、精密検査や治療を要するケースには迅速に対処した。異常が認められた利用者には再検査を行った。

・感染症や食中毒の予防のため、検便を実施した。（職員：毎月、利用者：年6回）

・病気等の予防、通院及び治療など自己管理能力の向上を図る支援を行った。

・感染症対策のため、利用者に手洗い・手指消毒等の感染防止対策を継続した。

・通院・入院の状況

受診内容による分類	内科	精神科	てんかん	脳神経外科	歯科	外科	皮膚科	眼科	耳鼻科	整形外科又は接骨院	婦人科	泌尿器科
通院治療（回）	56	60	2	0	4	0	17	7	16	6	1	7
うち実人数（人）	9	6	1	0	1	0	4	2	3	3	1	1
入院治療（日）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち実人数（人）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑩ 災害防止対策

・総合防災訓練（2回）及び防災研修（1回）を実施した。

・まんさくの丘全体で実施する避難訓練に参加した。（月1回）

・発電機の操作及び作動確認を行った。（2回）

⑪ 関係機関・保護者との連携

・相談支援事業所、日中活動先等とのケース検討会

・就業・生活支援センター、相談支援事業所及び就労事業所との連携

・三恩会総会の開催

⑫ 苦情解決

・利用者にアンケート調査を実施した。（10月、3月）

・今年度も苦情はなかった。

⑬ 職員研修

ア 職場内研修

・救命救急研修（乳幼児）	7月17日	1名
・救命救急研修（成人）	8月7日	2名
・感染症対策委員会研修	8月21日	3名
・虐待防止委員会研修	3月17日	1名

イ 職場外研修（※はオンライン研修）

・山形県知的障害者福祉協会総会	4月23日	1名
・オンラインセミナー障がい者虐待防止対策への取り組み ※	5月15日	1名
・全国知的障害福祉関係施設長等会議 ※	8月18日～19日	1名
・関東地区宿泊型自立訓練事業等協議会職員研修会	11月6日	1名

・精神障がい者の障がい特性と支援技法を学ぶ研修会 ※	1月24日	1名
・成年後見制度講座	1月29日	4名
・山形県障がい者虐待防止・権利擁護研修	2月5日	1名
・その他 6件		6名

10 指定共同生活援助事業所 蔵王

個別支援計画に基づき、金銭管理、居室の清掃等の生活環境の改善、就労事業所と連携した職場定着を図るため必要な支援を行った。

令和6年度は、新規の入居者はおらず、充足率は91.7%であった。引き続き入居者の確保に向け、取り組みを進める。

入居者の高齢化に伴い、健康に問題を抱えるケースが増えているため、保護者や世話人、医療機関、就労先と連携し、安定した生活を継続できるよう支援を行った。

① 利用状況

事業所名		共同生活援助事業所蔵王（グループホーム6箇所：定員各4名）											入居定員		24名	
事業種別		障害福祉サービス（外部サービス利用型共同生活援助）											目標値		充足率100%	
項 目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均	
本年	入 居 者 数(人)	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	264人	22.0人	
	充 足 率(%)	91.7	91.7	91.7	91.7	91.7	91.7	91.7	91.7	91.7	91.7	91.7	91.7	－	91.7%	
	営 業 日 数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365日	－	
	延入居者数(人)	660	677	659	682	682	660	681	660	678	674	616	682	8,011人	667.6人	
	1日平均利用(人)	22.0	21.8	22.0	22.0	22.0	22.0	22.0	22.0	21.9	21.7	22.0	22.0	－	21.9人	
	稼 働 率(%)	91.7	91.0	91.5	91.7	91.7	91.7	91.5	91.7	91.1	90.6	91.7	91.7	－	91.4%	
前年度	入 居 者 数(人)	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	264人	22.0人	
	充 足 率(%)	91.7	91.7	91.7	91.7	91.7	91.7	91.7	91.7	91.7	91.7	91.7	91.7	－	91.7%	
	延入居者数(人)	660	677	660	682	669	660	681	660	679	676	638	679	8,021人	668.4人	
	稼 働 率(%)	91.7	91.0	91.7	91.7	89.9	91.7	91.5	91.7	91.3	90.9	91.7	91.3	－	91.3%	

② 入居の状況 (令和7年3月31日現在)

名 称	飯 田 荘	みどり荘	さくら荘	わかば荘	あすなろ荘	わかくさ	合 計
入居人数	4人	4人	3人	3人	4人	4人	22人(男11人・女11人)

③ 年齢構成 (令和7年3月31日現在)

年 齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計	平均年齢
人 数	0人	0人	3人	7人	7人	4人	1人	22人	51.7歳

④ 入居者の就労区分 (令和7年3月31日現在)

就労形態	一 般 就 労	就労継続支援A型	就労継続支援B型	生 活 介 護	無	職 合	計
人 数	13人	4人	4人	0人	1人		22人

⑤ 入居者に対する支援（延件数）

- ・社会生活上の相談及び支援（271回）
- ・余暇活動の支援（2回）
- ・職場訪問及び就労支援（48回）
- ・関係機関との連携（59回）

- 対人関係の調整（13回）
- 買物等の支援（38回）
- 問題行動への対応（6回）

⑥ 世話人に対する指導

相談及び業務指導（73回）

⑦ 健康及び衛生管理

- 健康管理に関する支援（116回）
- 医療機関への受診支援（76回）
- 入居者の健康診断の実施状況

検診内容	健康診断（一般）	健康診断（成人病）	子宮・乳がん検診
受診者数	22人	19人	4人

⑧ 地域生活関連

地域生活への適応に関する支援（5回）

⑨ 関係機関・保護者との連携

相談支援事業所との連携（69回）

三恩会総会の開催

⑩ 災害防止対策

- 蔵王通勤寮で実施した総合防災訓練に参加した。（2回／10月、2月）
- グループホームごとに防災設備の説明、消火訓練、避難経路の確認を行った。（2月）

⑪ 苦情解決

今年度は苦情がなかった。

11 指定相談支援事業所まんさく

障がいのある人の自立した日常生活、社会生活を実現できるよう支援するため、サービス提供事業者や市町村、教育機関等の関係機関と連携しながら、日常生活や必要なサービスの利用等の全般的な相談に応じ、サービス利用計画の作成、申請等の支援を実施した。

また、山形市から相談支援事業を受託した事業所として、山形市自立支援協議会の運営等を行った。受託業務である市内相談支援事業所の人材育成や相談体制の強化への取り組みについては、体制の厳しい中、講師、ファシリテーターを派遣した。また、他事業所の伴走支援として、スーパーバイズ、ケース会議等に参加し対応した。

令和6年度は、特定相談112件、障害児相談331件で障害児相談支援は目標値を下回った。令和6年度の人員体制では新規相談の受け入れが難しい状態であった。特定相談継続支援は142件、障害児相談継続支援は271件で目標値を上回り、事業所で過去最大の実績件数となった。令和7年度は基幹相談支援センターの受託、新規相談の受け入れのため、相談支援体制の強化が課題となっている。

① 新規相談件数・連絡調整件数

事業所名	相談支援事業所まんさく								利用定員		一名			
事業種別	特定相談支援、障害児相談支援、一般相談支援								目標値		特定105件、特定継続105件、 障害児360件、障害児継続175件			
項 目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
特 定 相 談(件)	8	9	11	10	8	4	14	10	9	10	13	6	112件	9.3件
特定相談継続支援(件)	12	11	10	12	11	11	10	12	8	10	12	23	142件	11.8件
障 害 児 相 談(件)	56	20	20	25	24	23	25	33	25	34	23	23	331件	27.6件
障害児相談継続支援(件)	28	27	29	19	21	41	10	12	19	19	19	27	271件	22.6件

② 新規相談件数（形態別）

区 分	平 日	時間外	休 日	合 計
電 話	335	0	0	335件
来 所	88	0	0	88件
訪 問	20	0	0	20件
そ の 他	0	0	0	0件
合 計	443件	0件	0件	443件

③ 相 談 者

区 分	件 数	区 分	件 数
本人・家族等	252	行政機関	6
民生委員	0	教育委員会	4
ケアマネジャー	5	山形市からの依頼	0
サービス提供事業所	174	その他（知人等）	0
医療機関	3	合 計	444件

④ 主な相談内容

内 容	件 数	内 容	件 数	内 容	件 数
サービス利用支援	2,293	保育・教育支援	550	雇用・就労支援	182
障がい・病状理解支援	215	家族・人間関係支援	23	社会参加・余暇活動支援	18
健康・医療支援	221	家計・経済支援	82	権利擁護・成年後見関係	14
不安解消・情緒支援	548	生活に関する支援	32	虐待に関する支援	2
そ の 他	0			合 計	4,180件

⑤ 相談後の連絡調整

区 分	件 数	区 分	件 数
本人・家族等	2,008	医療機関	143
民生委員・近隣関係	9	行政機関	757
ケアマネジャー	61	その他	151
サービス提供事業所	2,357	合 計	5,486件

⑥ 申請手続き

項 目	申請・処理件数	項 目	申請・処理件数
介護給付費支給申請	126	サービス等利用計画申請(者)	110
訓練等給付費支給申請	13	障がい児支援利用計画申請(児)	319
地域生活支援事業申請	37	福祉タクシー券・給油券	38
手帳申請関係	9	その他	8
自立支援医療請求	0		
障がい児通所給付費支給申請	317	合 計	977件

⑦ 障がい種別

身体障がい	知的障がい	精神障がい	発達障がい	難 病	その他	合 計
40	167	16	121	1	102	447人

⑧ カファレンス等の開催件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
5	11	8	6	3	3	9	7	8	7	8	8	83件

⑨ 地域との連携（※はオンライン会議）

・一般社団法人山形県地域包括支援センター等連絡会	4月23日	1名
・連携推進のための合同研修会	6月20日	1名
・山形市相談支援センター合同会議	7月4日	1名
・地域福祉推進会議「福祉のまち蔵王ふれあい集会」	10月10日	1名
・山形県地域生活定着支援センターネットワーク会議	10月23日	1名
・蔵王地域包括支援センター事例検討会	10月25日	1名
・村山地域精神障がい者地域移行・地域定着支援推進会議	12月13日	1名
・他機関協働を考える懇談会	2月18日	1名
・たきやま地域包括支援センター連絡会	年4回	1名
・山形市成年後見推進協議会	年2回	1名

⑩ 職員研修（※はオンライン研修）

・東北主任相談支援専門員フォローアップ研修	4月26日	1名
・在宅医療・介護推進フォーラム	6月22日	1名
・障害年金セミナー ※	9月10日	3名
・北海道・東北ブロック相談支援専門員研修北海道大会	10月18日～19日	1名
・ヤングケアラー支援地域研修会	10月2日	1名
・山形県専門コース別研修（意思決定支援）	12月5日	1名
・その他 3件		3名

Ⅳ 児童養護施設 山形学園

児童の人権を守り、安定した環境の中で児童一人ひとりが安心して心身共に健やかに過ごし、将来退園後の自立生活に向けて児童の力を育み、自信を持って社会へ巣立つことができるよう支援にあたった。

年度途中に退所した児童の多くが家庭復帰のケースであったことから、退園児だけでなく在園児も不安定になる時期が見られた。また、小学校高学年、中学生、高校生の児童の入所が続き、退園までの限られた期間の中で養育を行う難しさを感じ、よりよい養育の実践のために学校や関係機関との連携やユニット制を活かした支援の充実を図る必要が感じられた。

令和6年度から職員の泊まり勤務（宿直勤務）を夜勤に移行し、拘束時間の短縮や体力的な負担の軽減が図られ、仕事と家庭生活の両立を推進することができた。一方で勤務時間の変更による職員間のコミュニケーション不足や業務の偏りが見られ、職員同士が意識的に話をする機会を確保し、共通認識が得られるよう試行錯誤した一年であった。

① 入退所の状況

事業所名		山形学園										入所定員		40名	
事業種別		児童養護施設										数値目標		－	
項 目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
本年度	入所児数(人)	29	28	28	27	25	27	27	26	28	29	29	28	331人	27.6人
	新規入所(人)	0	0	0	0	1	2	0	0	2	1	0	0	6人	0.5人
	退所児数(人)	0	1	0	1	3	0	0	1	0	0	0	1	7人	0.6人
	入所率(%)	72.5	70.0	70.0	67.5	62.5	67.5	67.5	65.0	70.0	72.5	72.5	70.0	－	69.0%
児童内訳	高校生	6	6	6	6	6	6	6	6	7	7	7	6	75人	6.3人
	中学生	8	8	8	8	7	7	7	6	7	7	7	7	87人	7.3人
	小学生	9	9	9	9	9	11	11	11	11	12	12	12	125人	10.4人
	幼児	6	5	5	4	3	3	3	3	3	3	3	3	44人	3.7人
	3歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0人	0.0人
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0人	0.0人
	計	29	28	28	27	25	27	27	26	28	29	29	28	331人	27.6人
前年度	入所児数(人)	30	30	32	32	32	32	32	33	32	33	33	30	381人	31.8人
	入所率(%)	75.0	75.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	82.5	80.0	82.5	82.5	75.0	－	79.4%

※入所児童数は、毎月末日現在の人数

② 入所理由区分

(令和7年3月31日現在)

虐待	保護者の疾患等	経済的理由(破産等)	その他	合計
23	1	0	4	28人

③ 障がい等区分

(令和7年3月31日現在)

知的障がい児	注意欠陥／多動性障がい (ADHD)	広汎性発達障がい
3人	3人	1人

④ 退所児童状況

ア 自立 1名(県内進学1名)

イ 家庭復帰 4名

ウ 措置変更 2名

⑤ 児童処遇

ア 年少児

- 基本的な生活習慣の確立及び遊びを通して心身両面の育成に取り組んだ。
- 幼稚園を活用しながら、集団生活への適応力の向上を図った。
- 幼稚園入園前の幼児は、地域の子育てサロンや幼稚園の遊びの教室に参加し、地域との交流及び集団参加の体験を増やした。

イ 小学生

- 基本的な生活習慣の習得に努めた。
- 余暇活動や遊びを通して、情緒の安定を図り心身両面の育成に努めた。
- 学校との日常の相互連絡や連絡会(年2回)等を通して、生活と学習の向上につなげた。
- 長期休みに子ども達の自主グループでの学習会を設け、効果が見られた。
- 居室単位の活動やグループ活動を通して、協調性や自主性の高揚につなげた。

ウ 中学生・高校生

- 部活動と学業の両立が図れるように指導にあたった。
- 進路指導については学校等と連携し、進路目標を立て意識の高揚を図った。
- 基本的な生活習慣の習得を図り、社会性・協調性及び自立意欲の向上に努めた。
- スポーツ活動等を通して、情緒の安定を図り心身両面の育成につなげた。
- 高校卒業後の進路については、学校や関係者等と連携を図りながら十分な情報提供を行い、本人の意思を尊重しながら進めた。
- 高校3年生や高学年児童に対して、フレッシュマンスタート講座5回を実施した。

〈フレッシュマンスタート講座〉

	講座内容	講師等
第1回	法律教室	山形県青年司法書士会
第2回	ライフデザイン	MOTHER design わだゆきこ 氏
第3回	性と生	助産師 斉藤ひとみ 氏
第4回	ふれあいルームで一人暮らし体験	山形学園 職員・栄養士
第5回	公的な手続きの体験	山形学園 職員

エ 全児童

- 個々の児童の意見が尊重される環境作りとその対応の充実を図った。
- 小中学校でタブレット端末での学習が導入され、児童一人ひとりがタブレットを持ち帰って課題に取り組む機会が増えたことに伴い、端末の使い方や学習の支援を行った。
- 調理実習やおやつ作りを実施し、生活技術の習得と変化のある生活作りに努めた。
- 感染防止対策を徹底した上で園外活動を実施し、社会体験の機会を確保した。
- 児童相談所や関係機関との連携を図り、処遇の向上に努めた。
- 以下の研修に参加した。

○いのちの学習（誕生学） 3月21日 12名参加

○生きるためのいのちの教育（紙芝居） 3月27、29日 12名参加

⑥ 健康衛生管理

ア 感染症予防対策を徹底し、児童の健康維持と感染症の予防に努めた。

イ 健康診断を年2回実施した。

ウ 毎日の健康観察により、疾病の早期発見と早期治療に努めた。

エ 児童の検便を年3回実施し、感染症の予防に努めた。

オ 医療状況

区 分	内科	外科	皮膚科	歯科	整形外科	耳鼻科	眼科	泌尿器科	精神科	計
服薬(実人数)	68	2	36	15	9	41	17	5	42	235人
通院(延人数)	83	2	44	31	11	43	20	5	43	282人
入院(延人数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0人
計	151	4	80	46	20	84	37	10	85	517人

⑦ 給食の状況

ア より家庭的な雰囲気になるように、献立、食器、提供の仕方などを工夫した。

イ 年齢に適した栄養の供給に努めた。

ウ 隔月に給食委員会を開き、適切な食事内容の検討や食生活への興味や関心を高めた。

エ 衛生的な食事環境作りに配慮し、正しい食習慣の確立に取り組んだ。

オ 食事作り、配膳、食器洗い、米とぎなど子ども達がお手伝いする機会を増やした。

カ 行事食、郷土食、会食、外食、希望献立等を実施し、楽しく変化に富んだ食生活に努めた。

キ 手作りおやつを実施し、一緒に作る場面を増やし手作りの良さを児童に伝えた。

ク ユニット調理を実施し、生活技術の向上を図った。(土・日・長期休み)

ケ 畑で作った野菜を食事に使用するなど食育に力を入れた。

⑧ 行 事

生活の潤いと集団生活への適応や協調性の向上を図るために次の行事を実施した。児童が楽しみにしているグループ旅行は、ユニット毎に行程を考え、児童の希望を取り入れ、行先や内容もそれぞれで実施し、これまで以上に充実した形で実施することができた。

月	行 事 内 容
4月	職員歓迎会、入学祝い、お花見
5月	端午の節句、バーベキュー
6月	蔵王クリーン作戦
7月	七夕、日帰り旅行
8月	収穫祭、グループ旅行
9月	お月見
10月	ふれあいまつり、いも煮会、5時間リレーマラソン
11月	七五三
12月	クリスマス会
1月	だんご木刺し、もちつき会
2月	節分、スキー教室
3月	雛まつり、退園生激励会、卒業祝い、職員送別会

⑨ 地域活動と社会資源の活用

ア 地域交流を目的とした行事は規模を縮小して施設内で実施した。地元の行事への参加や介護施設でのボランティア活動などは感染防止の観点から昨年度に続き実施できなかった。

イ ボランティアや慰問等の受け入れ

1 個人 9 件の慰問の受け入れを行った。

ウ 実習生の受け入れ

- ・資格取得のための実習 大学生 4 名、短期大学生 3 名 専門学校 2 名
- ・介護等体験実習 大学生 4 名

⑩ 家族との関係作り・調整

ア 家庭へのファミリー・ケースワークを行い、早期家庭復帰が可能か検討を重ねた。

イ 家族も一緒に参加できる行事等では、親子関係の再構築や家族との関係作りに努めた。

ウ 夏休みや冬休みなどに、家庭への一時帰省を実施した。

エ 家族等との交流のない児童には、家庭生活体験事業を実施した。(3 家庭に 2 名の児童、延べ14日)

オ 家庭訪問 8 回

⑪ 退園児童のアフターケア

退所直後の児童の生活支援、就労状況の確認、園行事への案内、各種手続き支援、各種相談、大学生の実習時の宿泊支援及び出産時のショートステイ受け入れ等の支援を行った。(延べ人数186人、延べ件数552件)

⑫ 里親支援

- ・学園児童の里親委託 0 件
- ・里親サロン 4 回 (延べ43名)
- ・家庭訪問 14 回
- ・里親の一時的な休息の支援 (レスパイト) 延べ10日

⑬ 職員会議・委員会等

運営会議12回、職員会議13回、処遇会議 3 回、フロアー会議13回、給食委員会 6 回、ケース検討会12回、ケースカンファレンス 5 回、心理療法士・職員に対する専門医の助言等 (心理療法スーパービジョン) 10 回 (オンライン会議)

⑭ 職員研修

職員の資質向上のため、オンラインを利用した研修に積極的に参加した。また、感染症の予防や拡大防止のため、感染症に関する研修を実施した。

ア 内部研修会

- ・新採職員研修 6 月25日
- ・CAP 大人ワーク 12月 1 日
- ・児童心理に関する研修 1 月14日

イ 外部研修会 (※はオンライン研修)

- ・安心安全レベルアップ研修 10月24日 1 名
- ・児童福祉関係新任職員研修 6 月10日～11日 1 名
- ・東北ブロック児童養護施設研究協議会 6 月20日～21日 4 名

- ・里親研修 2月12日 4名
- ・山形県児童養護施設協議会宿泊研修会 11月13日～14日 3名
- ・虐待防止セミナー ※ 9月18日～10月1日 29名
- ・その他 4件 4名

⑮ 災害防止

ア 防災計画に沿って定期的に総合防災訓練・消火訓練（2回）、避難訓練（12回）を実施した。

イ 自転車の安全点検を行った。

ウ 登下校や外出時の事故防止のため、交通安全教育を実施した。

⑯ 心理療法の実施

ア 実施児童数 25名

イ 心理療法等の回数

・心理療法 827回 ・セカンドステップ 10回 ・サードステップ 5回 計842回

ウ 対象児童の年齢・主訴別数

	身体的虐待	ネグレクト	心理的虐待	その他	計
3歳～学齢前	0	0	1	0	1人
小学生	5	2	1	3	11人
中学生	3	0	2	2	7人
高校生、その他	0	1	0	2	3人
計	8	3	4	7	22人

⑰ 苦情解決

要望や意見はあったが、その都度話し合いで解決することができた。

⑱ こどもショートステイ事業（山形市委託事業）

家庭を取り巻く環境が複雑化している中で、子育て支援事業の一環として実施し、令和6年度は延人数37名（延日数79日）の利用実績があった。

V 高齢者総合福祉施設すげさわ

理念である「入所者・利用者、誰もが安心できる暮らしの実現」に向けて業務にあたった。
経営的には、「すげさわ」の各事業所が介護報酬による経営の維持に取り組んだ。

① 介護保険制度に対応し、次の事項に取り組んだ。

- ア 介護報酬による経営の維持
- イ 給付管理と介護報酬事務の正確化
- ウ 利用者の確保
- エ サービスの質の向上
- オ ケアプラン・リハビリプラン・栄養マネジメント・LIFE の適正度と実施度の向上
- カ 地域支援機能の強化

② 地域との交流

夏祭り及び敬老会は、新型コロナウイルスの感染防止のため、ご家族や外部への案内を自粛し、施設内で入所者と職員のみで開催した。

③ 地域貢献活動

買い物支援バスの運行、すげさわ団地内市道のごみ拾い、市有地の除草、資源回収への協力等を実施した。

④ 地域との連携

ア 地区会議への参加

新型コロナウイルスの感染防止を徹底しながら参加した。

イ 地区内学校の入学式への参加

コロナ禍以降案内はなかったが、今年度は山形医療技術専門学校から卒業式のご案内があり参加した。

⑤ 地区自治会、近隣施設との連携

ア 防災協力を図るため、防災訓練を実施したが、地区等への参加案内は自粛した。

イ 本沢地区と福祉施設との災害時相互応援協定連絡会議は、新型コロナウイルスの感染防止のため引き続き開催見送りとなった。

⑥ 「生産性向上委員会」の開催

すげさわの課題の把握・共有、課題解決に向けた対策、業務の効率化、職員の負担軽減を検討するため、各部所より中堅役職員の会議を開催した。

⑦ 「すげさわ経営会議」の開催

総合福祉施設として、有機的な連携を図ることや経営状況の共有、経営の安定化に向けた検討を行うため、各部所幹部職員の会議を開催した。

⑧ 職員研修の実施

職員の資質の向上を図るため、次の研修を実施した。

ア 内部研修（※は感染防止のため書面開催）

実施月	研 修 内 容	講 師 等
4 月	事業計画説明 ※	研修・広報委員会
5 月	救命救急（心肺蘇生・AEDの使用）	防災委員会

6月	食中毒予防について ※	木村主査（管理栄養士）
7月	褥瘡について ※	褥瘡・リハビリ委員会
8月	医療に関する研修 倫理・常識及び法令遵守について	ヴィアトリス製薬 高岡 剛 氏 研修・広報委員会
9月	虐待・身体拘束・事故防止について ※ 感染症について ※	リスクマネジメント委員会 安全衛生委員会
11月	認知症について ※	研修・広報委員会
1月	看取りに関する研修	研修・広報委員会
2月	感染症について ※	安全衛生委員会
3月	虐待・身体拘束・事故防止について ※	リスクマネジメント委員会

イ 外部研修（県内外）

オンライン研修又は集合研修に参加した。

⑨ 各種委員会

ア 安全衛生委員会

職員の健康診断（インフルエンザワクチン接種、新型コロナウイルスワクチン接種）、メタボリックシンドロームに着目した特定健診及び特定保健指導、感染症マニュアルの見直し、産業医との連携、水道水残留塩素測定、ストレスチェック等を実施した。新型コロナウイルス等の感染症に関する業務継続計画（BCP）の見直しを実施した。

イ 防災委員会

各種想定防災訓練、防災マニュアルの見直し、機器取扱マニュアル、自主点検、緊急連絡網の作成を行った。自然災害等に関する業務継続計画（BCP）の見直しを実施した。

ウ リスクマネジメント委員会

ヒヤリハット報告書等を通して、事故の分析、リスクの回避、安全な環境の提供及び介護事故の防止に努めた。虐待や身体拘束の研修を行い、発生防止の徹底を図った。

エ 研修・広報委員会

運営指導に義務付けられた研修を中心に開催した。また、全体会については新型コロナウイルスの感染防止を図るため、参加人数の制限や座席の配置を工夫して開催したほか、書面開催を併用した。また、すげさわ通信（機関紙）、家族会だより、施設のパンフレット作りを行った。ホームページを利用したショートステイ、デイサービスセンターの空き情報の発信や施設の様子紹介にも力を入れた。

オ 食事の委員会

選択食の希望調査、水分補給用飲み物の在庫管理、経口維持及び食事についての提案等を行った。

カ 褥瘡・リハビリ委員会

褥瘡の予防、褥瘡のある方の対応に力を入れた。褥瘡予防のため、電動体位交換ベッドを活用した。

キ 痰吸引委員会

痰吸引研修を修了した介護職員が、看護職員との連携・協働のもとに痰吸引や経管栄

養（医療的ケア）の取り扱いを迅速かつ安全に実施できるように取り組みを行った。

山形県に介護福祉士喀痰吸引実地研修機関の事業所登録を行い、職員1名が施設内での演習を実施し、実地研修を修了した。

1 特別養護老人ホーム菅沢荘（介護老人福祉施設）

安心・安全な介護、事故及び各種感染症の防止に努めたが、12月に新型コロナウイルス、1月にインフルエンザA型のクラスターが発生した。これまでの感染拡大防止策を踏まえ、職員が一丸となって取り組み収束することができた。

ベッドの稼働率は目標の95%を若干下回る94.4%であった。

新型コロナウイルスの感染対策を徹底しながら、自主事業の市営住宅認知症カフェを開催し、地域貢献事業の一環として毎月2回本沢地区の高齢者を対象に買物支援事業を実施した。

① 利用状況

事業所名		特別養護老人ホーム菅沢荘											入所定員		82名	
事業種別		介護老人福祉施設											目標値		稼働率95%	
項 目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均	
本年度	営 業 日 数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365日	—	
	延入所者数(人)	2,370	2,387	2,370	2,387	2,511	2,280	2,325	2,220	2,356	2,449	2,212	2,387	28,254人	2,354.5人	
	稼 働 率(%)	96.3	93.9	96.3	93.9	98.8	92.7	91.5	90.2	92.7	96.3	96.3	93.9	—	94.4%	
	平均要介護度	3.9	3.9	3.9	3.8	3.9	3.9	3.9	4.1	3.9	3.9	3.9	3.9	—	3.9	
前年度	延入所者数(人)	2,400	2,418	2,280	2,356	2,418	2,370	2,449	2,190	2,325	2,232	2,233	2,449	28,120人	2,343.3人	
	稼 働 率(%)	97.6	95.1	92.7	92.7	95.1	96.3	96.3	89.0	91.5	87.8	93.9	96.3	—	93.7%	

② 年齢構成 (令和7年3月31日現在)

年齢	60～69歳	70～75歳	76～80歳	81～85歳	86～90歳	91～95歳	96歳以上	計	平均年齢
人数	1	5	5	17	14	22	13	77人	88.5歳

③ 介護状況 (令和7年3月31日現在)

区分	食事			入浴			トイレ動作			整容			更衣			椅子とベッド間の移乗				歩行			
	自	一	全	自	一	全	自	一	全	自	一	全	自	一	全	自	見	座	全	自	歩	車	全
	立	部	介	立	部	介	立	部	介	立	部	介	立	部	介	立	守	れる	介	立	行	い	介
人数	46	21	13	0	41	39	6	34	40	14	41	25	6	41	33	6	33	17	24	0	12	29	39

④ 身体拘束ゼロ・高齢者虐待防止への取り組み

身体拘束、高齢者虐待はなかった。

⑤ ケアプランに基づくサービスの提供

ア ケアプランの精度を高め、かつ実施度を上げることに努めた。

イ ケアカンファレンスを随時開催し、迅速なケアプランの見直しを行った。

ウ 定期的なモニタリングを実施した。

⑥ ユニットケアの実施

内容の充実を図った。

⑦ 個別的ケアの実施

ア 個別的な関わりを入所者に対して適時実施した。

イ 個別的ケアでは、散歩、リハビリ、整容等を実施した。

⑧ 入所者の安全と健康の確保

ア 安全衛生委員会を中心に、新型コロナウイルス、インフルエンザ、ノロウイルス、疥癬、レジオネラ菌等の感染予防に努めた。

イ 安定した健康状態の保持と早目の処置対応に努めた。

ウ 健康診断の実施

エ インフルエンザ予防接種を入所者と職員が受け、流行を防止できた。

オ 嘱託医と協力病院との連携に努めた。

カ 健康管理状況

(令和7年3月31日現在)

区分	内科	精神科	皮膚科	歯科	整形外科	耳鼻科	眼科	泌尿器科	婦人科	外科	その他	計
服薬(実人数)	77	17	11	77	8	0	0	0	0	0	0	190人
通院(延人数)	18	1	17	0	4	0	22	44	4	31	6	147人
入院(延人数)	13	1	2	0	0	0	0	4	0	0	4	24人
計	108	19	30	77	12	0	22	48	4	31	13	361人

⑨ 栄養管理

ア 他職種との協働で適切な栄養ケアマネジメント及び経口維持の取り組みを実施し、個別の栄養管理を行った。

イ 行事食の提供等

前年度から業者に給食の献立業務を委託し、季節に合わせた節句料理・お祝い膳等の行事食を11回、選択食を48回入所者に提供した。

ウ 飲酒の日の開催(毎週木曜日)

エ 食事の種類

一般食 普通食59人(高栄養ゼリー、高栄養流動食含む)

療養食 糖尿病食9人、肺炎食2人、心臓病食3人、経管栄養食4人 計77人

オ 食事形態

(令和7年3月31日現在)

主食	ごはん	軟ごはん	全粥	ミキサー粥	ソフト粥	パン	計
人数	16	12	29	3	14	0	74人

副食	常食	キザミ食	極キザミ食	ミキサー食	計	うちソフト食併用者
人数	17	22	27	8	74人	7人

流動食	高栄養ゼリー	高栄養流動食	経管栄養	計
人数	4	3	4	11人

※うち食事併用者6人

⑩ 作業療法士によるリハビリテーション

(令和7年3月31日現在)

項 目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
評 価	0	0	1	0	0	0	7	3	1	2	2	0	16人	1.3人
個 別	38	48	42	21	57	17	41	37	16	0	13	21	351人	29.3人
そ の 他	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2人	0.2人
福 祉 用 具	7	10	0	3	1	0	3	4	1	2	1	2	34人	2.8人
計	45	58	44	24	58	17	51	44	18	4	17	23	403人	33.6人

⑪ 行事・レクリエーション

生活の潤いと楽しさを演出するため、感染症の防止を図りながら次の行事を実施した。

ア 全体行事 夏祭り、敬老会、芋煮会（それぞれ職員と入所者のみの参加）

イ 季節行事 花見、節句、七夕、紅葉狩り、クリスマス会、正月

ウ 活 動 朝の体操、創作活動、書道、絵画等

エ レクリエーションワーカーによる各種レクリエーションの実施

⑫ 各種会議の開催

入所者の処遇の安定と向上を図るため、次の会議及び委員会を開催した。(書面開催含む)

- ・すげさわ経営会議 12回
- ・ユニット職員会議 48回
- ・カンファレンス 144回
- ・各種委員会の開催 84回
- ・職員全体会議 12回

⑬ 入所決定会議の開催

次の入所者を選出するため、緊急性・透明性・公平性に留意し、年2回開催した。

⑭ 災害訓練

- ・総合防災訓練（地震・火災避難訓練） 各1回
- ・部分訓練 2回
- ・防災機器、車椅子取り扱い講習 1回
- ・通報招集訓練 1回
- ・夜間想定避難訓練（風水害） 1回
- ・防災設備自主点検 12回

⑮ 実習生等の受け入れ

- ・施設実習2名
- ・介護初任者研修0名

⑯ ボランティア活動

新型コロナウイルスの感染防止のため、ボランティアの受け入れを中止した。

⑰ 苦情解決

1件の苦情申立があった。入所者ご家族から入所者の医療的ケアに関すること、金銭の出入及び私物の管理に関して苦情の申立があったが、それぞれ適切に対応を行った旨を回答した。

⑱ 家族会との連携

- ・夏祭りや敬老会の共催は、新型コロナウイルスの感染防止のため自粛いただいた。
- ・アンケート調査の実施

⑲ 高齢者世話付住宅生活援助員派遣事業（山形市委託事業）

高齢者世話付住宅（シルバーハウジング）に生活援助員を派遣し、入居者の安否確認、生活相談を実施し、関係機関と連携に努め、入居者の安全安心な生活の確保に努めた。

- ・市営南山形住宅（E棟） 35世帯のうち、シルバーハウジング10世帯
- ・市営南山形住宅（G棟） 32世帯のうち、シルバーハウジング10世帯

ア 安否確認

入居者の希望を考慮して確認の曜日を決め、電話又は訪問により安否確認を実施した。

〈E棟・G棟〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実施日数	21	21	20	22	21	19	22	20	20	19	18	20	243日
電 話	92	88	80	102	76	84	87	75	70	69	67	64	954回
訪 問	1	2	0	5	3	1	4	2	0	0	2	1	21回
計	93	90	80	107	79	85	91	77	70	69	69	65	975回

イ 生活相談

毎月相談日（月8時間）を設け、市営住宅の相談室において生活相談等を受付けたが、相談はなかった。

〈E棟・G棟〉

内 容	相 談 の 形 態				計
	電 話	訪 問	相 談 日	そ の 他	
医療・健康	0	0	0	0	0件
福 祉	0	0	0	0	0件
家 族	0	0	0	0	0件
そ の 他	0	0	0	0	0件
計	0	0	0	0	0件

ウ 緊急対応

緊急時対応は「緊急時対応マニュアル」に基づき、電話及び訪問により速やかに状況を確認し必要な対応を行った。夜間・休日の通報及び初期対応を警備会社に委託し、連絡を受けた場合は職員が迅速に対応した。

〈E棟・G棟〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実報(時間内)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
実報(時間外)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1件
誤報(時間内)	0	0	1	2	1	0	0	1	0	0	1	0	6件
誤報(時間外)	2	5	1	3	2	1	1	1	2	2	3	3	26件
計	2	5	2	5	3	1	2	2	2	2	4	3	33件

エ 一時的家事援助

〈E棟・G棟〉 0件

オ 関係機関との連携

毎月、市長寿支援課に実績報告を行い、生活状況や介護の状態の悪化など困難なケースが発生した場合は、連携を図り対応した。

〈E棟・G棟〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
包括支援センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
サービス業者	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	1	4件
地域関係者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
長寿支援課	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
住宅管理センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
そ の 他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
計	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	1	4件

2 菅沢荘ショートステイ（短期入所生活介護事業）

1年を通して稼働率は70%～80%台で推移し、年間の平均稼働率は79.4%で前年度の83.2%から3.8%低下した。特別養護老人ホーム等の入所増加や短期間での利用が主な要因と考えられる。他部所での新型コロナウイルスやインフルエンザの感染が確認された際にも感染防止対策を徹底した上で営業を継続した。

① 利用状況

事業所名		菅沢荘ショートステイ										利用定員		18名／日	
事業種別		（介護予防）短期入所生活介護										目標値		稼働率90%	
項 目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
営 業 日 数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365日	－
本 年 度	延利用定員(人)	540	558	540	558	558	540	558	540	558	558	504	558	6,570人	547.5人
	延利用者数(人)	412	372	409	434	470	409	454	379	480	481	417	499	5,216人	434.7人
	稼 働 率(%)	76.3	66.7	75.7	77.8	84.2	75.7	81.4	70.2	86.0	86.2	82.7	89.4	－	79.4%
前 年 度	平均要介護度	2.3	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.1	2.4	2.4	2.3	2.3	2.4	－	2.3
	延利用者数(人)	461	462	420	424	480	474	521	406	466	465	440	460	5,479人	456.6人
	稼 働 率(%)	85.4	82.8	77.8	76.0	86.0	87.8	93.4	75.2	83.5	83.3	84.3	82.4	－	83.2%

② 作業療法士によるリハビリテーション

項 目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
評 価	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1人	0.1人
個 別	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2人	0.2人
運 動 療 法	181	200	206	195	227	172	264	183	222	204	193	163	2,410人	200.8人
福 祉 用 具	1	4	0	0	4	2	2	1	1	1	1	1	18人	1.5人
そ の 他	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	4人	0.3人
計	182	206	206	195	233	174	266	184	225	206	194	164	2,435人	202.9人

3 菅沢デイサービスセンター 通常型

利用者の新型コロナウイルス罹患による利用中止等があったものの、令和6年4月から営業を休止した認知症型の利用者を通常型で受け入れたこともあり、平均稼働率は74.5%で前年度の68.2%を上回った。

① 利用状況

事業所名		菅沢デイサービスセンター（通常型）											利用定員		25名／日	
事業種別		通所介護、介護予防・日常生活支援総合事業（通所型サービス）											目標値		稼働率85%	
項 目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均	
本年度	営 業 日 数	22	23	20	23	22	21	23	21	21	20	20	21	257日	－	
	延利用者数(人)	383	450	388	458	464	411	434	395	366	332	336	369	4,786人	398.8人	
	1日平均利用(人)	17.4	19.6	19.4	19.9	21.1	19.6	18.9	18.8	17.4	16.6	16.8	17.6	－	18.6人	
	稼 働 率 (%)	69.6	78.3	77.6	79.7	84.4	78.3	75.5	75.2	69.7	66.4	67.2	70.3	－	74.5%	
	平均要介護度(総合事業除く)	1.8	1.7	1.7	1.8	1.8	1.8	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.6	－	1.7	
前年度	延利用者数(人)	354	408	400	375	386	365	372	363	304	335	360	361	4,383人	365.3人	
	稼 働 率 (%)	70.8	71.0	72.7	71.4	67.1	69.5	67.6	66.0	57.9	67.0	68.6	68.8	－	68.2%	

② 機能訓練

機能訓練指導員が集団体操を実施した。

③ 健康管理

視診、血圧・体温測定（午前・午後2回）、体重測定、服薬の管理など利用者の健康管理と指導を行い、新型コロナウイルス等の感染防止のため、手洗い、手指消毒、換気等をまめに行った。また、感染症に関する業務継続計画（BCP）の定期見直しと訓練を実施した。

④ 家族との連携

連絡帳及び送迎時の情報交換を通して連携を密にし、信頼関係の形成に努めた。

⑤ 関係機関との連携

居宅介護支援事業所や地域包括支援センターとの連携を密にし、適切なサービスの提供に努めた。自作のパンフレットやお便りの発行のほか、随時ホームページで活動の様子を更新するとともに、空き情報を掲載し情報の提供に努めた。

⑥ 栄養管理

利用者の嗜好を大切にしながら、季節の行事食を織り交ぜて満足感の得られる食事の提供に努めた。

- ・季節に合わせたお祝い膳
- ・芋煮会の実施
- ・出前寿司昼食の実施

⑦ 災害訓練

災害に関する業務継続契約（BCP）の定期見直しと訓練を実施し、菅沢荘と合同で定期的に災害訓練を実施した。

⑧ 主な活動

4月	花見、誕生会	10月	芋煮会、誕生会、紅葉狩り
5月	ドライブ、誕生会、運動会	11月	誕生会、ショッピング
6月	ショッピング、誕生会	12月	忘年会、誕生会
7月	あじさい見学、誕生会	1月	初詣、誕生会
8月	ハスの花見学 誕生会	2月	誕生会、雛人形作成
9月	敬老会、出前寿司、誕生会	3月	ショッピング、誕生会

⑨ 苦情解決

今年度は苦情がなかった。

4 山形西部地域包括支援センター

昨年度と同様に、高齢者の単身・夫婦世帯や複合的な課題を抱える世帯が増える中、コロナ禍による交流減少の影響か認知症の症状が進行した相談が増え、関係機関とのネットワークの構築により権利擁護に努め、個別地域ケア会議を適宜開催しながら相談業務を行った。

新規相談件数は、前年度の529件から98件少ない436件に減り、令和3年度の相談件数に戻った半面、困難ケースが増え、その支援に関わるために多くの時間が割かれた。また、重層的支援対象者の実態把握件数は、昨年度と同様に年間で13件の実績があり、64歳以下の方を含めた世帯支援が求められている。

ネットワーク連絡会等の中で、山形市から個別避難行動支援制度の説明を受け、地域の防災体制や取組み等を聞き、今後のケアマネジャーとの連携を関係者間で共有し、これからの地域づくりについて話し合った。これまで進めてきた在宅療養啓発のための『いっぷぐカード』については、山形市ケア調整会議に取り上げていただき、市社会福祉協議会から協力いただき全市的に活用できるようになった。

介護予防ケアマネジメントの実績件数は、月平均206.5件で月々の変動はあるものの、総件数は2,478件で前年度とほぼ同数であった。今年度から居宅介護支援事業所が介護予防の指定を受け、直接契約できる体制となったが、当センターで担当する件数はほとんど変わっていない。

① 総合相談支援業務

ア 相談関係

項 目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
新規相談(件)	71	62	46	38	30	38	40	17	17	27	25	25	436件	36.3件
連絡調整(件)	537	645	663	639	618	568	628	634	639	685	651	734	7,641件	636.8件
実態把握(件)	27	27	31	23	29	31	31	29	29	35	27	25	344件	28.7件
重層的支援(件)	1	0	1	1	1	2	1	1	1	2	0	2	13件	

イ 介護予防の講話等

- 地域のサロン（53回）
- 南山形健康講話（10回）、福祉道場（1回）、打合わせ（1回）
- 西山形はつらつ元気教室（2回）
- 本沢備える研修（1回）
- 大曾根さわやか荘出前相談（6回）

ウ 地域との連携

- 包括支援センターネットワーク連絡会開催
- 各地区ネットワーク連絡会兼住民懇談会（5地区）
- 地域福祉推進会議（3回）、協力員等研修会（10回）、地区関係者研修会行事等（7回）
- 民生児童委員定例会／丸ごと相談会参加（30回）

- ・民生児童委員個別情報交換（12回）
 - ・地域密着型運営推進会議（16回） グループホーム／小規模多機能／地域密着型デイ
 - ・西山形介護者サロンいっぶぐ会（7回）
 - ・本沢元気もりもり応援隊派遣調整（20回）
 - ・認知症カフェ（カフェ・オキナグサ6回）
 - ・百歳体操後方支援（40回） 大曾根・村木沢・双葉・にしにし会・南山形／高知県とオンラインで百歳体操
 - ・認知症サポーター養成講座（3回） サロン・大曾根地区保健衛生部・西山形小）
 - ・地域交流バス検討会（村木沢あじさいバス2回・南部線1回）
 - ・いっぶぐカード関連の打合わせ・広報（6回） 道の駅蔵王、市役所エントランス
- エ 広報活動

- ・センターだよりの発行（4回）

② 権利擁護業務

- ・成年後見制度等への対応（3件）
- ・高齢者虐待等への対応（3件）
- ・困難事例への対応（31件）

③ 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

- ・居宅介護支援事業所連絡会開催（3回）／幹事会（6回）
- ・介護支援専門員等への個別支援（6件）
- ・本沢地区福祉施設相談員情報交換会（1回）
- ・個別地域ケア会議（5回）
- ・自立支援ケア会議（5回、うち包括主催4回）

④ 介護予防ケアマネジメント業務等

項 目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
予 防 給 付(件)	123	122	124	122	118	117	121	114	119	114	117	114	1,425件	118.8件
(うち委託件数)	36	31	32	32	33	31	30	29	31	30	30	29	374件	31.2件
総 合 事 業(件)	87	90	89	86	86	86	83	82	92	91	89	92	1,053件	87.8件
(うち委託件数)	6	9	10	10	10	10	10	8	9	9	10	9	110件	9.2件
認 定 調 査(件)	1	2	5	1	2	6	1	1	4	6	2	2	33件	2.8件
住 宅 改 修(件)	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	6	11件	0.9件

⑤ 苦情解決

苦情なし

⑥ 業務継続計画（BCP）研修及び机上訓練 各1回実施

5 指定居宅介護支援事業所すげさわ

介護支援専門員3名体制で業務にあたり、介護サービス提供事業所と連携を図り、利用者のニーズに沿った適切なケアプランの作成に努めた。

令和6年7月から介護予防支援の指定を受け、これまで地域包括支援センターから受託する形で提供していた介護予防ケアマネジメントが要支援者と直接契約して提供できるようになった。要介護認定の更新で要支援となった方や居宅介護支援を提供する利用者と同居する要支援の方から依頼があり、担当継続のメリットや事務手続の簡素化もあって介護予防ケアプラン作成の実績件数は昨年度比で56件増加した。この影響もあり事業所全体のケアプラン作成の実績件数は昨年度の1,444件を大きく上回る1,585件となった。

令和6年度の介護報酬改定により、介護予防支援を提供する利用者の取扱件数が、令和5年度までの要介護認定者の2分の1換算から3分の1換算となった。これにより担当できる件数が増加したが、介護予防支援の報酬単価は居宅介護支援に比べて低く、実収入が件数に比例しないため、今後は調整しながら介護予防ケアマネジメントの受け入れを検討していく。

① ケアプラン作成

事業所名	居宅介護支援事業所すげさわ											利用定員	－名	
事業種別	居宅介護支援											目標値	実績件数1,260件	
項 目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
介 護 給 付(件)	112	117	119	120	122	117	116	116	114	110	110	114	1,387件	115.6件
予 防 給 付(件)	－	－	－	0	4	6	9	12	12	12	13	14	82件	9.1件
予 防 給 付(受託)	11	12	11	12	11	9	7	4	4	4	4	4	93件	7.8件
総 合 事 業(受託)	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	23件	1.9件
計	124	131	132	134	139	134	134	134	132	128	129	134	1,585件	132.1件
前年度件数	120	122	119	121	118	120	117	121	120	121	123	122	1,444件	120.3件

Ⅵ 養護老人ホームあたご荘

前年度に引き続き感染症防止対策を行いながら、入所者が安全・安心な生活を送ることができるよう、心身の状態維持・向上を念頭に置いて処遇にあたった。業務継続計画に基づく避難確保計画や感染症・食中毒予防及びまん延防止のための指針等と連動しながら運用を開始した。加えて、高齢者虐待防止指針を策定し取り組んだ。

入退所に関しては、各市町及び関係機関との連携に努め、入所は4件であった。そのうち3件は老人一時入所を経ての入所であった。死亡や措置解除等により12名が退所し、令和6年度末の入所者数は60名となっている。

(1) 入所者の状況

① 入退所状況

事業所名		養護老人ホームあたご荘											入所定員	100名	
事業種別		養護老人ホーム、外部サービス利用型特定施設											目標値	－	
項 目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
本 年 度	入 所 者 数(人)	67	67	67	67	66	65	65	65	64	63	62	60	778人	64.8人
	新 規 入 所(人)	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	4人	0.3人
	退 所 者 数(人)	1	0	0	0	2	0	1	1	3	1	1	2	12人	1.0人
	入 所 率 (%)	67.0	67.0	67.0	67.0	66.0	65.0	65.0	65.0	64.0	63.0	62.0	60.0	－	64.8%
要支援・要介護者数(人)		47	47	47	47	46	45	45	44	42	41	40	38	529人	44.1人
外部サービス契約者数(人)		30	30	30	30	29	31	30	29	26	26	26	25	342人	－
前 年 度	入 所 者 数(人)	78	78	77	76	76	75	75	75	73	70	70	68	891人	74.3人
	入 所 率 (%)	78.0	78.0	77.0	76.0	76.0	75.0	75.0	75.0	73.0	70.0	70.0	68.0	－	74.3%

※「入所者数」は毎月末日現在の人数、「外部サービス契約者数」は入院者を除いた人数

ア 入所者の前の状況

事由	男性	女性	計
他施設・病院	1	0	1人
自 宅	1	2	3人
計	2	2	4人

イ 退所者の状況

事由	男性	女性	計
他施設入所等	1	5	6人
死 亡	2	4	6人
計	3	9	12人

② 在所期間

(令和7年3月31日現在)

性別／期間	～1年	1～4年	5～9年	10～14年	15～19年	20～年	計	平均期間
男	2	5	14	2	0	0	23人	6年4か月
女	2	9	17	8	1	0	37人	7年4か月
計	4	14	31	10	1	0	60人	6年11か月

※最長在籍15年8か月

③ 年齢構成

(令和7年3月31日現在)

性別／年齢	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95歳以上	計	平均年齢
男	0	7	7	4	2	3	0	23人	79歳
女	0	4	7	7	8	7	4	37人	84歳
計	0	11	14	11	10	10	4	60人	82歳

※最年長者 97歳

④ 措置者の人数枠と入所者数 (令和7年3月31日現在)

市・町(枠)	男性	女性	計	市・町(枠)	男性	女性	計
山形市(86)	21	35	56人	山辺町(4)	0	1	1人
天童市(3)	2	0	2人	中山町(3)	0	1	1人
東根市(2)	0	0	0人	河北町(1)	0	0	0人
寒河江市(1)	0	0	0人	計(100)	23	37	60人

⑤ 要支援・要介護者及び外部サービス利用者の状況 (令和7年3月31日現在)

介護度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
人数	3	8	11	9	4	3	0	38人
外部サービス契約者	0	3	9	8	2	3	0	25人
訪問介護	0	1	5	7	2	3	0	18人
通所介護	0	1	3	2	0	0	0	6人
訪問入浴	0	1	0	1	1	3	0	6人
福祉用具貸与	0	1	1	8	2	3	0	15人
訪問リハビリ	0	0	0	0	1	0	0	1人

⑥ 老人一時入所者の利用状況(ショートステイ)

経済的状況	入所実人員	入所延日数	平均利用日数	うち措置入所した人数(令和6年度中)
生活保護世帯	3人	31日	10日	0人
その他の世帯	9人	1,196日	132日	3人
計	12人	1,227日	—	3人

※令和7年3月31日現在一時入所者2人(その他の世帯)

⑦ 無年金者 3人

⑧ 障がい者手帳所持者 13人

ア 身体障がい 6人 イ 精神障がい 4人 ウ 療育手帳(知的障がい) 3人

⑨ 各種疾患に伴う主な定期・不定期受診者 (令和7年3月31日現在)

疾患名(精神)	人数	疾患名(内科)	人数	疾患名(その他)	人数
認知症	18人	高血圧症	40人	脳血管疾患	15人
統合失調症	10人	心臓疾患	21人	白内障	13人
躁うつ病	1人	便秘症	16人	骨粗鬆症	5人
睡眠障害	12人	悪性新生物	8人	皮膚疾患	10人
てんかん	2人	高脂血症	13人	前立腺疾患	4人
		糖尿病	7人	腰痛・腰椎症	3人
		気管支喘息	3人		

⑩ 入院状況

	精神科	内科	外科	循環器科	その他	計	平均入院日数
人数	5	7	5	0	12	29人	240日

※令和7年3月31日現在の入院者5人

⑪ 面会状況

感染防止対策に留意しながら予約制で実施した。(延入所者17人に24人の面会あり)

(2) 援助活動

① 主な行事等

4月	花見ツアー	10月	芋煮会、バス旅行 (コロナ感染症拡大のため中止)
5月	端午の節句のつどい	11月	紅葉狩り
6月	県老協通信輪投げ大会 笹巻づくり	12月	クリスマスのつどい、年末行事
7月	七夕飾り、バス旅行、夏まつり	1月	新年祝賀会 新春喫茶 新春企画 健康安全祈願祭 だんご木刺し
8月	教養人生講話会	2月	節分のつどい
9月	敬老祝賀会	3月	ひな祭りのつどい 教養人生講和会

※買い物ツアー（4～11月）車窓ツアー（11月）

② クラブ活動等

クラブ名	きれいにし隊	映写会	大人の塗り絵	フラダンス講習会	ワナゲクラブ	生け花	合計
回数	36回	15回	11回	10回	35回	1回	108回
人数	159人	334人	111人	186人	247人	9人	1,046人

※入所者の自立支援のため「百歳体操」、「荘内ウォーキング」、「夕方のラジオ体操」を毎日実施した。

(3) 食 事

季節が感じられ「やまがた」の特徴を生かした変化のある献立にするとともに、入所者の高齢化に伴う摂食・嚥下機能低下に対応する食事を提供した。また、業務継続計画に沿った食事提供時の感染症防止対策や災害時の非常食の提供を行い、入所者の意識高揚に努めた。

- ① 選択食（週2回実施）
- ② お祝い膳（新年祝賀会、敬老祝賀会）
- ③ 季節献立（花見膳、彼岸ぼたもち（春・秋）、七夕そうめん、うなぎ丼、月見うどん等）
- ④ 行事食（夏祭り、芋煮会、クリスマス会）
- ⑤ 防災訓練にあわせた非常食の提供
- ⑥ 食事委員会の開催（食事環境の検討、食席等の検討等）
- ⑦ 食事アンケート（満足度の把握、意見・要望の聴取等）を計画・実施・評価した。
- ⑧ 食事形態（入所者60名、うち5名入院中）

（令和7年3月31日現在）

主 食		副 食		
ごはん	全 粥	普 通	刻 み	極刻み
31人	24人	33人	11人	11人

※アレルギー対応食2人、減塩食7人、糖尿食5人

(4) 健康及び衛生管理

① 往診（医師の出張診療）

内科（月2回）皮膚科（月1回）整形外科（月1回）

精神科（9月まで月2回／10月から外来診察へ切替え）

- ② 訪問歯科診療（月２回） 要介護認定該当者
- ③ 健康診断（年２回） ５月、１２月（血液、尿検査）
- ④ インフルエンザ予防接種（１１月）、新型コロナウイルスワクチン接種（１２月）
- ⑤ 機能訓練（毎朝の百歳体操の実施）
- ⑥ 口腔ケア（介助を要する入所者へ実施）
- ⑦ 体重測定（毎月１回）及び血圧測定（毎月２回）
- ⑧ 感染症対策委員会（嘔吐物処理研修、感染症予防対策）
- (5) 災害及び事故防止対策
 - ① 防災訓練

・土砂災害想定避難訓練（避難確保計画による避難経路確認）	６月１８日
・火災想定避難訓練（消火訓練）	９月２６日
・夜間想定避難訓練（非常連絡網による伝達訓練）	１１月１９日
・地震想定避難訓練（避難及び通報訓練、消火訓練）	３月１４日
 - ② 毎月の安全点検（居室・廊下等）
 - ③ 防災委員会（訓練内容の検討・実施、課題の改善）
 - ④ リスクマネジメント委員会（毎月開催、事故防止対策の検討・周知）
- (6) 職員研修

職員のスキルアップ及び入所者へのサービス向上を図るため、職員内研修を実施した。

・年度内の事業について（１回）	・各委員会の計画（１回）
・ＢＣＰ（感染症・自然災害）について（２回）	・高齢者虐待・身体拘束について（２回）
・避難確保計画について（１回）	・ＡＥＤ研修（１回）
・吐物処理実技研修（３回）	・介護技術研修（６回）
・メンタルヘルス研修（２回）	・外部研修報告会（１回）
・事故防止について（１回）	・荘長と語る会まとめ報告（１回）
・入所者アンケート集計（１回）	・個別ケース検討（１０回）
- (7) 荘長と語る会（荘内をブロックに分けて２回実施）
- (8) アンケートの実施（施設の生活等及び食事について 各１回実施）
- (9) あたご荘親睦会（５回） 入所者へ年間の行事説明、意見交換
- (10) 介護等体験受け入れ（１０名）

Ⅶ ヘルパーステーションあたご

各種疾患や障がいの程度により、要支援・要介護の認定を受けたあたご荘入所者のうち、利用契約を締結した方を対象に、下記のとおり身体介護サービスを提供した。サービスの提供にあたっては、引き続き感染症の予防に留意しながらケアを行った。また、あたご荘職員と合同で研修を行い、職員のスキルアップを図った。

年間利用者数は、要支援者を含め258人で目標の400人を達成することができなかった。これは、あたご荘の入所者数が減少していること及びあたご荘退所者12名のうち9名がヘルパーステーションあたごの利用者であったことが要因である。

① サービスの提供状況

ア 要介護者

事業所名	ヘルパーステーションあたご											利用定員	40名	
事業種別	訪問介護、介護予防・日常生活支援総合事業（訪問型サービス）											目標値	年間利用者数420人	
項 目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
要介護認定者(人)	31	32	32	33	33	35	34	33	31	30	29	27	380人	31.7人
訪問介護サービス利用者(人)	20	20	20	20	20	23	23	20	19	18	18	18	239人	19.9人
排 泄 介 助	14	14	15	15	15	16	15	14	14	12	13	12	169人	14.1人
入 浴 介 助	17	17	16	16	15	18	19	17	15	16	14	13	193人	16.1人
口 腔 ケ ア	4	4	5	5	6	7	6	7	7	7	7	7	72人	6.0人
食 事 介 助	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0人	0.0人
計	35	35	36	36	36	41	40	38	36	35	34	32	434人	36.2人
前 年 度	44	42	42	42	42	40	40	38	39	36	34	34	473人	39.4人

イ 要支援者

項 目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
要支援認定者（人）	16	15	15	14	13	11	11	11	11	11	11	11	150人	12.5人
訪問介護サービス利用者(人)	3	3	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	19人	1.6人
入 浴 介 助	3	3	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	19人	1.6人
前 年 度	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36人	3.0人

Ⅵ たきやま地域包括支援センター

令和6年度は、山形市の第9期介護保険事業計画に基づき、特に認知症関連の事業に力を入れて取り組んだ。

山形市や地区社会福祉協議会と協力し「認知症になっても住み慣れた地域でともに支え合い自分らしくチャレンジできるまちづくり」をテーマに住民懇談会を開催し、住民の方々、地区役員、介護保険事業所に参加いただき、意見交換を行った。また、これまで滝山コミュニティセンターで開催していた認知症予防教室等については、遠くて参加できない等の声があったため、町内会の集会所で開催するなど積極的に地区に足を運び、一人でも多くの方が参加できるよう工夫し、認知症の理解促進や周知啓発に努めた。

滝山地区は市内最多の人口で毎年高齢者数が増加しており、相談の実績件数と介護予防ケアマネジメントの実績件数は、前年度を超え過去最高の実績件数となった。このような状況の中で、多岐にわたる相談や支援に対し、職員間で共通理解を深めながら課題の解決を図った。また、多機関協働で円滑に支援できるよう連携強化にも努めた。

① 総合相談支援業務

ア 相談実績

項 目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
新規相談(件)	39	36	35	43	32	32	32	32	32	34	34	29	410件	34.2件
連絡調整(件)	636	802	681	962	801	705	846	720	799	824	898	883	9,557件	796.4件
実態把握(件)	16	26	30	19	17	22	20	26	14	20	17	22	249件	20.8件
重層的支援(件)	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	1	0	4件	0.3件

- いきいきサロンや介護予防教室での相談窓口の開設（27回）

イ 地域との連携

- 民生委員定例会（11回）
- 福祉協力員大会・研修会（3回）、地区代表者会議（4回）、福祉協力員三役会（7回）
- 滝山地区福祉推進会議（1回）
- 滝山地区介護予防のつどい（14回）
- 三者懇談会（10回）
- 青少年健全育成協議会活動（2回）
- 我が事、まるごと地域づくり（3回）

ウ 介護予防事業

- 認知症予防教室（フレイル予防）3回
- 介護予防に関する講話・周知啓発（サロン、つどい、介護予防教室、センターだより等37回）
- 通いの場・サロン等の継続支援（14回）

エ 広報活動

- 包括支援センターだより「あんしん定期便」の発行（4回）
※全戸配布1回、回覧3回
- 公式LINEのアンケート配信

② 権利擁護業務

- ・成年後見制度、高齢者虐待、消費者被害等に関する周知啓発（民協定例会、サロン、つどい、センターだより等45回）
- ・成年後見制度申立支援 高齢者虐待への対応 困難ケースへの対応

③ 包括的・継続的ケアマネジメント業務

- ・滝山地区居宅介護支援事業所連絡会（オンライン開催5回、事例検討会1回）
- ・滝山地区小規模多機能型居宅介護支援事業所連絡会（開催4回、研修会3回）
- ・自立支援型地域ケア会議（5事例）
- ・個別地域ケア会議（10回）
- ・介護支援専門員への個別支援（3回）

④ 介護予防ケアマネジメント業務

ア 実績件数

事業所名	たきやま地域包括支援センター												利用定員	－名	
事業種別	介護予防支援												利用定員	－	
項 目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均	
予 防 給 付(件)	125	125	118	128	132	133	124	130	129	125	126	135	1,530件	127.5件	
(うち委託件数)	44	42	42	46	44	46	41	46	44	45	40	41	521件	43.4件	
総 合 事 業(件)	110	117	113	118	115	116	118	120	113	108	109	115	1,372件	114.3件	
(うち委託件数)	15	16	13	14	13	13	14	13	12	12	13	14	162件	13.5件	
認 定 調 査(件)	5	2	3	5	0	5	5	5	3	5	9	4	51件	4.3件	
住 宅 改 修(件)	0	0	1	0	0	1	1	0	2	1	0	0	6件	0.5件	

⑤ 認知症支援

- ・認知症カフェ「ほっこりカフェ・ぼんぼんカフェ」（4回）
- ・認知症サポーター養成講座（1回）
- ・認知症初期集中支援チーム（認知症対応、同行訪問、センターだよりでの活動紹介）
- ・認知症地域支援推進員（認知症カフェ、認知症予防教室開催に向けた連携）

⑥ 関係機関等との連携

- ・生活支援コーディネーター（ごはんけい事業（芸大等）、南くるりんバス周知、通いの場の立ち上げ、地域ニーズの把握、事業の周知・広報）
- ・こども・高齢者見守り連絡所（介護保険サービス事業所、新聞販売所等29か所）
- ・在宅医療・介護連携室ポピー（人生会議研修会住民向け1回、事業所向け1回）
- ・多機関協働支援センターとの連携（複雑・多様化した家族問題の相談）、連絡会（11回）、研修参加（1回）
- ・小規模多機能型居宅介護、地域密着型介護老人福祉施設、グループホーム運営推進会議（通常開催36回）
- ・きずな作りの会（委員会4回、栄養予防講座2回、調理実習2回）
- ・看護学生実習の受け入れ（5名）

IX 指定居宅介護支援事業所たきやま

利用者や家族との信頼関係の構築に努め、自分らしく自立した生活を継続できるよう支援した。

地域包括支援センターや関係機関と連携した支援を行うとともに、圏域の居宅介護支援事業所との連絡会や研修会に参加し、質の高いケアマネジメントの提供につなげた。また、7月より介護予防支援の指定を受けた。

事業所の安定した経営を図るため、介護支援専門員3名体制で事業を実施してきたが、4月の人事異動により職員2名体制で業務にあたった。当初の目標値1,200件の3分の2の800件を目標とし、利用者の新規開拓に努めた結果、868件の請求実績件数となった。これは地域包括支援センターや病院、他居宅介護支援事業所等との情報共有や連携した支援を行うことで、多くの新規利用者開拓につながった結果だと思われる。一方で、就労等の都合で在宅介護より施設入所を選ぶ家族が増えている現状は変わらず、家族支援においては継続した課題となっており、引き続き、介護予防と自立支援の視点を意識し、家族支援も考慮しながら実績件数の増加・確保に努める。

① ケアプラン作成

事業所名	居宅介護支援事業所たきやま											利用定員		－名	
事業種別	居宅介護支援											目標値		実績件数1,200件	
項 目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均	
介護給付(件)	66	67	68	66	71	68	70	67	65	66	74	73	821件	68.4件	
予防給付(件)	－	－	－	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2件	0.2件	
予防給付(受託)	3	3	3	3	2	1	1	1	1	1	1	1	21件	1.8件	
総合事業(受託)	3	3	3	3	2	2	2	2	2	1	1	0	24件	2件	
計	72	73	74	72	75	71	73	70	68	68	76	76	868件	72.3件	
前年度	72	63	67	66	65	68	74	71	76	74	76	76	848件	70.7件	

② 更新調査

項 目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
調 査 件 数	2	2	4	6	4	4	6	6	5	3	4	3	49件	4.1件

X 銅町デイサービスセンター

山形市内の老人デイサービスが供給過多の状況であることから、山形市が設置した銅町デイサービスセンターについては、市の方針により12月31日をもって営業を休止し、3月31日をもって廃止された。これにより指定管理者である事業団は当該事業所の管理運営を終了した。

なお、令和6年4月から12月までの延利用者数は3,538人、稼働率は50.2%であった。

① 利用状況

① 利用状況

事業所名		銅町デイサービスセンター											利用定員		30名／日	
事業種別		通所介護、介護予防・日常生活支援総合事業（通所型サービス）											目標値		稼働率75%	
項 目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均	
本年度	営 業 日 数	26	27	25	27	26	26	27	25	26				235日	－	
	延利用者数(人)	465	435	421	472	456	455	464	274	96				3,538人	393.1人	
	1日平均利用(人)	17.9	16.1	16.8	17.5	17.5	17.5	17.2	11.0	3.7				－	15.0人	
	稼 働 率(%)	59.6	53.7	56.1	58.3	58.5	58.3	57.3	36.5	12.3				－	50.2%	
	平均要介護度	1.6	1.6	1.6	1.5	1.5	1.5	1.4	1.5	1.1				－	1.5	
前年度	延利用者数(人)	382	398	403	383	455	421	449	410	401	386	422	413	4,923人	410.3人	
	稼 働 率(%)	50.9	49.1	51.7	49.1	56.2	54.0	55.4	52.6	53.5	53.6	56.3	52.9	－	52.9%	

② 利用者への対応

事業所の休止・廃止の方針が示された9月末時点の実利用者数は54名であった。

利用者及び家族に直接丁寧に説明を行うとともに、利用者の担当介護支援専門員に状況を説明し、利用者の新たな受け入れ先の確保について協力を依頼した。12月末の営業休止までにはすべての利用者が新たな施設等に移行することができた。

③ 職員への対応

職員説明会の開催や職員全員との個人面談を実施し、丁寧に職員の意向を確認し、法人内施設への配置換えや他法人施設等への斡旋を行い、できる限り雇用継続できるよう対応した。

④ 高齢者世話付住宅生活援助員派遣事業（山形市委託事業）

12月末で事業所を休止した後も正規職員1名が当該業務に対応し、山形市との業務委託契約に基づき、3月31日まで高齢者世話付住宅（シルバーハウジング）の入居者に安否確認や生活相談等を実施し、入居者の安全安心な生活の確保に努めた。

- ・市営銅町住宅 118世帯のうち、シルバーハウジング36世帯
- ・市営薬師町住宅 60世帯のうち、シルバーハウジング18世帯

ア 安否確認

平日は毎日実施を基本に、入居者と相談して確認の曜日を決め、電話又は訪問等で安否を確認し、併せて健康状態の把握を行った。

〈銅町住宅〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実施日数	21	21	20	22	21	19	22	20	21	19	18	20	244日
電 話	232	208	204	224	203	200	217	188	227	201	187	201	2,492回
訪 問	3	3	1	4	4	4	1	1	2	2	4	5	34回
計	235	211	205	228	207	204	218	189	229	203	191	206	2,526回

〈薬師町住宅〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実施日数	21	21	20	22	21	19	22	20	21	19	18	20	244日
電 話	88	71	71	88	72	75	84	71	89	71	71	73	924回
訪 問	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	4回
計	88	71	72	88	72	75	84	71	89	71	74	73	928回

イ 生活相談

毎月予約制による相談日を設け、各市営住宅の相談室や自室で入居者からの生活相談に応じた。生活援助員では対応困難な相談内容については、関係機関と協議の上対応した。

〈銅町住宅〉

内容	相談の形態				計
	電 話	訪 問	相 談 日	そ の 他	
医療・健康	3	0	0	0	3件
福 祉	1	0	0	0	1件
家 族	0	0	0	0	0件
そ の 他	0	0	0	1	1件
計	4	0	0	1	5件

〈薬師町住宅〉

内容	相談の形態				計
	電 話	訪 問	相 談 日	そ の 他	
医療・健康	0	0	0	0	0件
福 祉	0	0	0	0	0件
家 族	0	0	0	0	0件
そ の 他	0	0	0	0	0件
計	0	0	0	0	0件

ウ 緊急時対応

緊急時対応は「緊急時対応マニュアル」に基づき、電話又は訪問により速やかに状況を把握し、迅速適正に対応した。夜間・休日の通報及び初期対応を警備会社に委託し、連絡を受けた場合は職員が迅速に対応した。

〈銅町住宅〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実報(時間内)	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4件
実報(時間外)	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3件
誤報(時間内)	0	0	0	4	0	1	0	0	1	0	0	1	7件
誤報(時間外)	0	3	0	1	1	1	1	0	0	0	3	2	12件
計	1	3	4	5	1	2	1	0	1	0	4	4	26件

〈薬師町住宅〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実報(時間内)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
実報(時間外)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
誤報(時間内)	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	3件
誤報(時間外)	0	1	2	2	1	0	0	2	0	0	0	0	8件
計	0	1	2	2	1	2	0	2	1	0	0	0	11件

エ 一時的家事援助

〈銅町住宅〉

蛍光灯・電球等の交換、手足の爪切り 他

〈薬師町住宅〉

蛍光灯の交換、家電品の組み立て 他

オ 関係機関との連携

毎月、市長寿支援課には入退院等の状況を報告し、生活状況や介護状況の悪化など困難なケースが発生した場合は、連携を図り対応した。

〈銅町住宅〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
包括支援センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
サービス業者	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	1	4件
地域関係者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
長寿支援課	0	2	2	2	1	3	3	1	0	0	1	2	17件
住宅管理センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
そ の 他	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5	6件
計	0	2	3	2	2	3	4	1	0	0	2	8	27件

〈薬師町住宅〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
包括支援センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
サービス業者	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1件
地域関係者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
長寿支援課	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2件
住宅管理センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
そ の 他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2件
計	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4	5件